

授業科目名	総合文学演習 (2A)
科目番号	02DS103
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 齋藤 一, 吉原 ゆかり
授業概要	多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	研究発表を通して、最近の文学・文化理論を学びつつ、研究能力を総合的に発展させる。
授業計画	毎回、受講者の研究発表をもとにディスカッションをおこなう。 担当順やテーマは受講者との調整による。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学・文化理論, 研究技法, 発表技術

授業科目名	総合文学演習 (2B)
科目番号	02DS104
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 齋藤 一, 吉原 ゆかり
授業概要	春学期に継続して、多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	春学期に引き続き、研究発表を通して、最近の文学・文化理論を学びつつ、研究能力を総合的に発展させる。
授業計画	毎回、受講者の研究発表をもとにディスカッションをおこなう。 担当順やテーマは受講者との調整による。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学・文化理論, 研究技法, 発表技術

授業科目名	文学理論研究 (2A)
科目番号	02DS113
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	文学理論を基礎として、博士論文執筆をめざした文学研究法を精錬する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文学理論を基礎として、博士論文執筆をめざした文学研究法を精錬する。
授業計画	文学研究の方法論を意識し、各受講生の研究能力の向上をはかる。 各受講者に、優れた学術論文・先行研究、理論的典拠となる文献を提示してもらい、全員で検討する。 また、各受講者の研究を全員で検討する。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学理論, 文学研究方法論

授業科目名	文学理論研究 (2B)
科目番号	02DS114
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	春学期に継続して、文学理論を基礎としながら博士論文執筆をめざした文学研究法を精錬する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	春学期に引き続き、文学理論を基礎として、博士論文執筆をめざした文学研究法を精錬する。
授業計画	文学研究の方法論を意識し、各受講生の研究能力の向上をはかる。 専門研究書を一冊指定し、輪読しながら、理論的思考力・問題意識を深化させる。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学理論, 文学研究方法論

授業科目名	文学文化論研究 (2A)
科目番号	02DS133
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	齋藤 一
授業概要	欧米の重要な批評書を輪読する。批評書が論じている可能な限り作品も読む。なお、日本語訳を使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	中間評価論文の執筆を目指している学生向けの授業とする。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文学作品の研究に必要な基礎知識 (主に文学理論) を身につけることを目標とする。
授業計画	大貫・河野・川端編『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. 大貫隆史・河野真太郎・川端康雄 (編), 『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』研究社、2013 年
参考書	授業中に適宜指示する。
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	批評, 文化, 社会

授業科目名	文学文化論研究 (2B)
科目番号	02DS134
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	齋藤 一
授業概要	欧米の重要な批評書を輪読する。批評書が論じている可能な限り作品も読む。なお、日本語訳を使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	中間評価論文の執筆を目指している学生向けの授業とする。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文学作品の研究に必要な基礎知識 (主に文学理論) を身につけることを目標とする。
授業計画	大貫・河野・川端編『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. 大貫隆史・河野真太郎・川端康雄 (編), 『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』研究社、2013 年
参考書	授業中に適宜指示する。
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	批評, 文化, 社会

授業科目名	文学文化論演習 (2A)
科目番号	02DS143
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 6
担当教員	齋藤 一
授業概要	最新の批評理論を知る上で必要不可欠な著作をとりあげ輪読する。日本語訳を主に使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	博士論文の執筆を目指している学生向けの授業となる。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	欧米で出版された重要な批評書 (日本語訳) を読み、議論をおこなう。
授業計画	エドワード・W・サイード『文化と帝国主義』(上巻) の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. エドワード・W・サイード,『文化と帝国主義』上巻、みすず書房、1998 年
参考書	授業中に適宜指示する。なお、『文化と帝国主義』はオリジナルの英語版 (ペーパーバック) を用意しておくことが望ましい。 1. Edward W. Said,Culture and Imperialism, Vintage, 1994.
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	文化, 文学, 帝国主義

授業科目名	文学文化論演習 (2B)
科目番号	02DS144
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	齋藤 一
授業概要	最新の批評理論を知る上で必要不可欠な著作をとりあげ輪読する。日本語訳を主に使用するが、必要に応じて原典も参照する。
備考	博士論文の執筆を目指す学生向けの授業となる。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	欧米で出版された重要な批評書 (日本語訳) を読み、議論をおこなう。
授業計画	エドワード・W・サイード『文化と帝国主義』(下巻) の輪読を予定している。 第 1 回どの項目を誰が担当するのかについて受講者と議論しながら決定する。
成績評価方法	授業への参加態度、貢献度、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	1. エドワード・W・サイード,『文化と帝国主義』下巻、みすず書房、2001 年
参考書	授業中に適宜指示する。なお、『文化と帝国主義』はオリジナルの英語版 (ペーパーバック) を用意しておくことが望ましい。 1. Edward W Said,Culture and Imperialism, Vintage, 1994.
オフィスアワー	月曜日の 2 限とする。
TF・TA	
キーワード	文化, 文学, 帝国主義

授業科目名	文学交流論研究 (2A)
科目番号	02DS153
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 2
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	Readings in academic articles about Japanese culture and literature written in English.
備考	英語を併用する We read articles written in English and class is conducted by both in Japanese and English. 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	We read English academic articles and books on literatures written Japanese and on Japanese culture. The class is given in Japanese and English. We read literatures discussed in the article/book in original Japanese. 英語で、日本語文学や日本文化について書かれた学術論文・書籍を読む。授業は日本語と英語を交えて行う。論文・著作で研究されている文学作品を、オリジナルの日本語で読む。
授業計画	第 1 回 Details to be announced at the first class meeting. The first article to be read is Suh, "Colonialism, Translation, Literature: Takahama Kyoshi's Passage to Korea".
成績評価方法	Class contribution. Assignments. Final paper. 授業への貢献。中間課題。期末ペーパー。
教科書	1. Shirane, Cambridge History of Japanese Literature
参考書	
オフィスアワー	Mondays, 11:30-12:30, Office A515.
TF・TA	
キーワード	academic, reading, Japanese, literature, culture

授業科目名	文学交流論研究 (2B)
科目番号	02DS154
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 2
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	Readings in academic writings on critical theories on Japanese literature and culture in English.
備考	英語を併用する We read articles and books written in English and class is given both in Japanese and English. 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	We read English academic articles and books and critical theories on literatures written Japanese and on Japanese culture, to gain further expertise in writing/reading academically. The class is given in Japanese and English. We read literatures discussed in the article/book in original Japanese. 英語による、学術的読解・文書作成能力の進展を目指して、英語で、日本語文学や日本文化について書かれた学術論文・書籍・理論書を読む。授業は日本語と英語を交えて行う。論文・著作で研究されている文学作品を、オリジナルの日本語で読む。
授業計画	第 1 回 Details to be announced on the first class meeting.
成績評価方法	Class contribution. assignments. final paper. 授業への積極的参加。課題。期末ペーパー。
教科書	1. Shirane, Cambridge History of Japanese Literature
参考書	
オフィスアワー	Mondays, 11:30-12:30
TF・TA	
キーワード	academic, reading, Writing, presentation, Japanese, literature, culture

授業科目名	文学交流論演習 (2A)
科目番号	02DS163
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	Readings in literatures written in Japanese.
備考	日本語を併用する We read Japanese literatures in original Japanese, and class is given both in English and Japanese. 2017 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	This class is aimed at cultivating the students' ability to academically read and analyze literary texts written in Japanese (including literatures written in Japanese in colonies and occupied areas, and including 'popular' texts such as manga). The class is conducted in combination of English and Japanese. 日本語で書かれたテキスト作品 (植民地、占領地域で日本語で書かれた日本語テキスト作品を含む、漫画などの「大衆的」テキストを含む) を、学術的に読解し、分析する能力の涵養を目指す。授業言語は英語と日本語を併用する。
授業計画	In this term, the focus is on literary texts written by / about women in the Taisho era, where early forms of feminism were emergent. 今期は初期フェミニズム萌芽期にあった、大正期に女性により、あるいは女性に関して書かれた文学テキストにフォーカスを当てる。 第 1 回 Details to be announced at the first class meeting. 詳細は初回授業で提示する。
成績評価方法	class participation, assignments, final paper. 授業への積極的な参加、課題、最終ペーパー。
教科書	1. 大和和紀, はいからさんが通る 2. 野上弥生子, 真知子 3. Jane Austen, Pride and Prejudice
参考書	
オフィスアワー	Tuesdays, 10:10-11:25
TF・TA	
キーワード	literatures, written, in, Japanese, close, reading

授業科目名	文学交流論演習 (2B)
科目番号	02DS164
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	Close and analytical readings in literatures written in Japanese.
備考	日本語を併用する。We read literature written in Japanese in their originals, and class is conducted both in Japanese and English. 2017 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	This class is aimed at cultivating the students' ability to academically read and analyze literary texts written in Japanese (including literatures written in Japanese in colonies and occupied areas, and including 'popular' texts such as manga). The class is conducted in combination of English and Japanese. 日本語で書かれたテキスト作品 (植民地、占領地域で日本語で書かれた日本語テキスト作品を含む、漫画などの「大衆的」テキストを含む) を、学術的に読解し、分析する能力の涵養を目指す。授業言語は英語と日本語を併用する。
授業計画	We attempt at analyzing historical, political and cultural significance "shoujo," overlapping but distinct from "girls". 英語で「ガール」という場合とは、意味が一部重なりつつも、それと同一ではない、「少女」の歴史的文化的政治的意義を考察する。 第 1 回 Details to be announced at the first class meeting.
成績評価方法	class participation, assignments, final paper. 授業への積極的な参加、課題、期末ペーパー
教科書	1. 川端康成, 浅草紅団 2. 森茉莉, 甘い蜜の部屋
参考書	
オフィスアワー	Tuesdays, 10:10-11:25
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	比較文学研究 (2)
科目番号	02DS172
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	加藤 百合
授業概要	明治時代の文学状況を比較文学的に捉える。初出 (当時のかたち) テキストを読む訓練をおこなう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本近代の文学およびそれを成り立たせていた時代思潮について一次資料を読みながら考察する。
授業計画	明治時代になり、文学の担い手も、読者も、また発表される機関も変わった。西洋文化の移入、教育内容の変化、文学者の教養や読書範囲、といったことを勘案しながら、当時の発表形態で文学作品を読んでゆく。 第 1 回~第 15 回まで、順次明治 10 年代上下、明治 20 年代上下、明治 30 年代上下、明治 40 年代上下、大正時代上中下、と話を進めることも考えているが、履修者の関心の範囲を勘案する。時代と内容に応じ、随時担当を指名して演習形式も導入する。
成績評価方法	とにかく毎回出席し主体的に参加してほしい。私の話題提供に対して自らの意見、情報、を出してくれることを期待。
教科書	随時補助資料は配布する。また、読んでおいてほしい資料を指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	ガーシュパール・ボグラルカさん
キーワード	近代, 明治, 文学, 翻訳, 翻案

授業科目名	比較文学演習 (2)
科目番号	02DS177
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	加藤 百合
授業概要	演習形式とし、各自の研究対象とするテキストを周辺の文献と併せて読み、その同時代的評価および現在から振り返っての評価を試みる訓練を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	各自が近代日本の文学に生じた問題や興味深い現象を発見して調べ、発表を担当する。
授業計画	比較文学研究 (4) を履修していることを前提として行なう演習。自分の専攻研究、自らの関心にひきつけて、比較文学的テーマを見出して順次発表してゆく。 第 1 回~15 回 履修者が順次発表し、その内容について補足を行ったり討論をしたりすることで授業を進める。
成績評価方法	自分の担当のときには、必要な資料を調査し、考察を加え、適切なハンドアウトを作成する。毎回出席し、他の人の発表に積極的に参加する。
教科書	特に指定しない。各自が指定してゆく。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	ガーシュパール・ボグダルカさん
キーワード	近代, 文学, 翻訳, 翻案, 影響, 文学伝統

授業科目名	西洋古典学研究 (2A)
科目番号	02DS205
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	ギリシア語韻文研究. 古典ギリシア語による演習.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	古典ギリシア語による演習を通じて, ギリシア語韻文を研究する.
授業計画	第 1 回 Homerus, Ilias XXII, 1-32. 第 2 回 Homerus, Ilias XXII, 33-68. 第 3 回 Homerus, Ilias XXII, 69-102. 第 4 回 Homerus, Ilias XXII, 103-133. 第 5 回 Homerus, Ilias XXII, 134-167. 第 6 回 Homerus, Ilias XXII, 168-202. 第 7 回 Homerus, Ilias XXII, 203-238. 第 8 回 Homerus, Ilias XXII, 239-273. 第 9 回 Homerus, Ilias XXII, 274-307. 第 10 回 Homerus, Ilias XXII, 308-340. 第 11 回 Homerus, Ilias XXII, 341-376. 第 12 回 Homerus, Ilias XXII, 377-407. 第 13 回 Homerus, Ilias XXII, 408-441. 第 14 回 Homerus, Ilias XXII, 442-474. 第 15 回 Homerus, Ilias XXII, 475-515.
成績評価方法	出席および授業への参加でもって評価する.
教科書	1. Irene J. F. De Jong, Homer: Iliad XXII, Cambridge 2012.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ホメロス, 古代叙事詩

授業科目名	西洋古典学研究 (2B)
科目番号	02DS206
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	前期の継続. 古典ギリシア語韻文研究.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	古典ギリシア語による演習を通じて, ギリシア語韻文を研究する. 前期の継続.
授業計画	第 1 回 Homerus, Odyssea XIII,1-30. 第 2 回 Homerus, Odyssea XIII,31-60. 第 3 回 Homerus, Odyssea XIII,61-90. 第 4 回 Homerus, Odyssea XIII,91-120. 第 5 回 Homerus, Odyssea XIII,121-150. 第 6 回 Homerus, Odyssea XIII,151-180. 第 7 回 Homerus, Odyssea XIII,181-210. 第 8 回 Homerus, Odyssea XIII,211-240. 第 9 回 Homerus, Odyssea XIII,241-270. 第 10 回 Homerus, Odyssea XIII,271-300. 第 11 回 Homerus, Odyssea XIII,301-330. 第 12 回 Homerus, Odyssea XIII,331-360. 第 13 回 Homerus, Odyssea XIII,361-390. 第 14 回 Homerus, Odyssea XIII,391-420. 第 15 回 Homerus, Odyssea XIII,421-440.
成績評価方法	出席および授業への参加によって評価する.
教科書	1. A. M. Bowie, Homer: Odyssey bk. XIII & XIV, Cambridge 2013.
参考書	受号中に適期指示する.
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ホメロス, 古代叙事詩.

授業科目名	西洋古典学演習 (2A)
科目番号	02DS215
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 3
担当教員	秋山 学
授業概要	中世スコラ哲学テキスト研究. ラテン語による講読.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	ラテン語による講読を通じて, 中世スコラ哲学のテキスト研究を行う.
授業計画	第 1 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.8, a.4. 第 2 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.8, a.4. 第 3 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.8, a.5. 第 4 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.8, a.6. 第 5 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.8, a.7. 第 6 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.8, a.8. 第 7 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.9, a.1. 第 8 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.9, a.2. 第 9 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.9, a.3. 第 10 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.9, a.4. 第 11 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.1. 第 12 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.2. 第 13 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.3. 第 14 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.4. 第 15 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.5.
成績評価方法	授業への出席および参加により評価する.
教科書	1. Fratres Ordinis Praedicatorum, Summa Theologica II-II.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	トマス・アキナス, スコラ哲学.

授業科目名	西洋古典学演習 (2B)
科目番号	02DS216
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 3
担当教員	秋山 学
授業概要	Continuation of the First Semester. 前期の継続.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	ラテン語による講読を通じて、中世スコラ哲学のテキスト研究を行う。
授業計画	第 1 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.6. 第 2 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.7. 第 3 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.8. 第 4 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.9. 第 5 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.10. 第 6 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.11. 第 7 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.10, a.12. 第 8 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.11, a.1. 第 9 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.11, a.2. 第 10 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.11, a.3. 第 11 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.11, a.4. 第 12 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.12, a.1. 第 13 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.12, a.2. 第 14 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.13, a.1. 第 15 回 Thomas Aquinas, Summa Theologica II-II, q.13, a.2.
成績評価方法	授業への出席および参加によって評価する。
教科書	1. Fratres Ordinis Praedicatorum, Summa Theologica II-II.
参考書	授業中に適宜指示する。
オフィスアワー	火: 4 限 O H (要アポ) 木: 3 限 O H (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	トマス・アキナス, 中世スコラ哲学.

授業科目名	古典古代学研究 (2A)
科目番号	02DS225
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	イタリア語文献講読. 古典古代 (または美術史) 学の論文を読む.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	イタリア語文献講読. 古典古代学の論文を読む.
授業計画	第 1 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.13-14. 第 2 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.15-16. 第 3 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.17-18. 第 4 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.19-20. 第 5 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.21-22. 第 6 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.23-25. 第 7 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.26-27. 第 8 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.28-29. 第 9 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.30-31. 第 10 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.32-33. 第 11 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.34-36. 第 12 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.37-38. 第 13 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.39-40. 第 14 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.41-42. 第 15 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.43-44.
成績評価方法	授業への参加および出席状況によって評価する.
教科書	1. Michael Strausberg (trad. di Riccardo Nanini), Zarathustra e lo zoroastrismo.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	イタリア語, 古典古代学.

授業科目名	古典古代学研究 (2B)
科目番号	02DS226
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	前期の継続. イタリア語文献講読.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	イタリア語文献の講読を通じて, 古典古代学研究を深化させる. 前期の継続.
授業計画	第 1 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.45-46. 第 2 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.47-48. 第 3 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.49-50. 第 4 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.51-52. 第 5 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.53-54. 第 6 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.55-56. 第 7 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.57-58. 第 8 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.59-60. 第 9 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.61-62. 第 10 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.63-65. 第 11 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.66-67. 第 12 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.68-69. 第 13 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.70-71. 第 14 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.72-74. 第 15 回 Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo, p.75-77.
成績評価方法	授業への参加および出席によって評価する.
教科書	1. Michael Strausberg, Zarathustra e lo zoroastrismo
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	イタリア語, 古典古代学.

授業科目名	古典古代学演習 (2A)
科目番号	02DS235
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	比較対照言語学研究. ハンガリー語・日本語対照文法・翻訳論研究.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	ハンガリー語文献の講読により, 翻訳論研究・比較対照言語学研究を行う.
授業計画	第 1 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 300-301 o. 第 2 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 302-303 o. 第 3 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 304-305 o. 第 4 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 306-307 o. 第 5 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 308-309 o. 第 6 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 310-311 o. 第 7 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 312-313 o. 第 8 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 314-315 o. 第 9 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 316-317 o. 第 10 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 318-319 o. 第 11 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 320-321 o. 第 12 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 322-323 o. 第 13 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 324-325 o. 第 14 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 326-327 o. 第 15 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 328-329 o.
成績評価方法	
教科書	1. Szerb Antal, Magyar Irodalom T ö rt é net, 1934.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 O H (要アポ) 木: 3 限 O H (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ハンガリー語, 比較対象言語学.

授業科目名	古典古代学演習 (2B)
科目番号	02DS236
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	前期の継続. ハンガリー語・日本語対照文法研究.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	
授業計画	第 1 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 330-331 o. 第 2 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 332-333 o. 第 3 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 334-335 o. 第 4 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 336-337 o. 第 5 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 338-339 o. 第 6 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 340-341 o. 第 7 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 342-343 o. 第 8 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 344-345 o. 第 9 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 346-347 o. 第 10 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 348-349 o. 第 11 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 350-351 o. 第 12 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 352-353 o. 第 13 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 354-355 o. 第 14 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 356-357 o. 第 15 回 Magyar Irodalom T ö rt é net, 358-359 o.
成績評価方法	授業への参加および出席によって評価する.
教科書	1. Szerb Antal, Magyar Irodalom T ö rt é net, 1934.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	火: 4 限 O H (要アポ) 木: 3 限 O H (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	古典古代学特殊研究 I(2A)
科目番号	02DS245
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	秋山 学, 池田 潤
授業概要	聖書学を中心とした演習. 受講者による発表形式.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	受講者による発表形式を採り入れながら, 聖書学を中心として広く古典古代文化研究をおこなう.
授業計画	第 1 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 3-6. 第 2 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 7-10. 第 3 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 11-14. 第 4 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 15-18. 第 5 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 19-22. 第 6 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 23-26. 第 7 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 27-30. 第 8 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 31-34. 第 9 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 35-38. 第 10 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 39-42. 第 11 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 43-46. 第 12 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 47-50. 第 13 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 51-54. 第 14 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 55-58. 第 15 回 Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi, 59-63.
成績評価方法	授業への参加と出席状況により評価する.
教科書	1. Pietro Lievore, Padova: Battistero della cattedrale, Affreschi di Giusto de'Menabuoi.
参考書	授業中に適宜指示する.
オフィスアワー	秋山 学 火:4 限 O H (要アポ) 木:3 限 O H (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp

TF・TA	
キーワード	聖書学, 古典古代学.

授業科目名	古典古代学特殊研究 I(2B)
科目番号	02DS246
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	秋山 学, 池田 潤
授業概要	前期の継続. 口頭発表練習.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	受講者による発表形式を採り入れながら, 聖書学を中心として広く古典古代文化研究をおこなう. 前期分の継続.
授業計画	第 1 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 3-5. 第 2 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 6-8. 第 3 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 9-11. 第 4 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 12-14. 第 5 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 15-17. 第 6 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 18-20. 第 7 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 21-23. 第 8 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 24-26. 第 9 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 27-29. 第 10 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 30-33. 第 11 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 34-37. 第 12 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 38-39. 第 13 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 40-41. 第 14 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 42-44. 第 15 回 Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 45-47.
成績評価方法	授業への参加と出席状況により評価する.
教科書	1. Padri Domenicani, La Basilica di Santa Maria sopra Minerva, 2001.
参考書	
オフィスアワー	秋山 学 火: 4 限 O H (要アポ) 木: 3 限 O H (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	聖書学, 古典古代学.

授業科目名	日本文献学研究 (2A)
科目番号	02DS303
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	本井 牧子
授業概要	筑波大学に所蔵される版本の書誌調査を通じて、文献学の基礎を学ぶ。
備考	初日 4 月 11 日は人社 A201 にて行う。その後図書館にて講義する。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	古典籍の調査方法および文献学的分析方法に習熟する。(書誌解題作成編)
授業計画	書誌学の基礎知識を学んだ上で、筑波大学附属図書館に所蔵される古典籍のなかから宗教文献を対象として実際に調査を行い、その結果を分析、検討する。その上で、調査結果にもとづいた書誌解題を作成する。 第 1 回古典籍の基礎知識 (1) 第 2 回古典籍の基礎知識 (2) 第 3 回研究史の概観と基礎資料の整理 第 4 回予備調査 (1) 第 5 回閲覧調査 (1) 第 6 回調査報告 (1) 第 7 回予備調査 (2) 第 8 回閲覧調査 (2) 第 9 回調査報告 (2) 第 10 回予備調査 (3) 第 11 回閲覧調査 (3) 第 12 回調査報告 (3) 第 13 回調査結果の検討・整理 第 14 回書誌解題作成 第 15 回相互批評
成績評価方法	授業への出席、実習・調査へのとりくみ:40% 課題:60%
教科書	特に指定しない
参考書	1. 大沼晴暉,『図書大概』(汲古書院、平成 24 年) 2. 堀川貴司,『書誌学入門—古典籍を見る・知る・読む—』(勉誠社出版、平成 22 年) 3. 斯道文庫編,『図説書誌学—古典籍を学ぶ』(勉誠出版、平成 22 年)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	古典籍・書誌学・文献学

授業科目名	日本文学研究 (2B)
科目番号	02DS304
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	本井 牧子
授業概要	筑波大学所蔵の版本について解題を作成する。
備考	図書館にて講義する。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	古典籍の文献学的分析方法に習熟する。(解題作成編)
授業計画	筑波大学附属図書館に所蔵される宗教文献の写本・刊本を、諸本と比較しつつ読みすすめ、当該資料を定位することを試みる。最終的には解題を完成させる。 第 1 回宗教文献のかたち—写本・完本— 第 2 回宗教文献の諸相 (1) 第 3 回宗教文献の諸相 (2) 第 4 回予備調査 (1) 第 5 回閲覧調査 (1) 第 6 回本文比較 (1) 第 7 回予備調査 (2) 第 8 回閲覧調査 (2) 第 9 回本文比較 (2) 第 10 回予備調査 (3) 第 11 回閲覧調査 (3) 第 12 回本文比較 (3) 第 13 回解題作成 第 14 回相互批評 第 15 回解題完成
成績評価方法	授業への出席、実習・調査へのとりくみ:40% 報告:60%
教科書	特に指定しない 1. 仏書解説大辞典 (大東出版社)
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	古典籍・書誌学・文献学

授業科目名	和漢比較文学研究 (2A)
科目番号	02DS313
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『白氏文集』巻六閑適詩の注解を行う。日本所在の旧鈔本である金沢文庫本を徹底的に読解し、訓点や声点などに注目して、博士家を中心とした日本人の『白氏文集』受容の実態を照らし出すことを目指す。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本古代中世における漢籍受容の実態をできるだけ具体的に明らかにすることを主な目的とする。同時に日中にわたる漢文文献の扱い方の習熟を期す。
授業計画	第 1 回講義の目的と方法 第 2 回資料についての概説 第 3 回 264 番詩 177~184 句目の訓読 第 4 回 264 番詩 177~184 句目の本文異同 第 5 回 264 番詩 177~184 句目の注解 第 6 回 264 番詩 177~184 句目の問題点 第 7 回 264 番詩 185~192 句目の訓読 第 8 回 264 番詩 185~192 句目の本文異同 第 9 回 264 番詩 185~192 句目の注解 第 10 回 264 番詩 185~192 句目の問題点 第 11 回 264 番詩 193~200 句目の訓読 第 12 回 264 番詩 193~200 句目の本文異同 第 13 回 264 番詩 193~200 句目の注解 第 14 回 264 番詩 193~200 句目の問題点 第 15 回 264 番詩 177~200 句目の問題点から見た比較文学上の論点
成績評価方法	発表の内容と討議の参加態度とによって評価する。
教科書	1. 川瀬一馬氏編,『金沢文庫本 白氏文集 一』勉誠社、1984 年
参考書	1. 平岡武夫氏・今井清氏校定,『白氏文集 第一冊』京都大学人文科学研究所、1971 年 2. 平岡武夫氏,『中国詩文選 17 白居易』筑摩書房、1977 年 3. 花房英樹氏,『白楽天』清水書院、1990 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:2 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	白居易, 閑適詩, 金沢文庫本, 旧鈔本, 注解

授業科目名	和漢比較文学研究 (2B)
科目番号	02DS314
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『白氏文集』巻六閑適詩の注解を行う。日本所在の旧鈔本である金沢文庫本に基づきつつ、主要諸本と比較対照することから、白居易独自の閑適詩の表現を吟味する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本古代中世における漢籍受容の実態をできるだけ具体的にあきらかにすることを主な目的とする。同時に日中にわたる漢文文献の扱い方の習熟を期す。
授業計画	第 1 回講義の目的と方法 第 2 回資料についての概説 第 3 回 264 番詩 201~208 句目の訓読 第 4 回 264 番詩 201~208 句目の本文異同 第 5 回 264 番詩 201~208 句目の注解 第 6 回 264 番詩 201~208 句目の問題点 第 7 回 264 番詩 209~216 句目の訓読 第 8 回 264 番詩 209~216 句目の本文異同 第 9 回 264 番詩 209~216 句目の注解 第 10 回 264 番詩 209~216 句目の問題点 第 11 回 264 番詩 217~224 句目の訓読 第 12 回 264 番詩 217~224 句目の本文異同 第 13 回 264 番詩 217~224 句目の注解 第 14 回 264 番詩 217~224 句目の問題点 第 15 回 264 番詩 201~224 句目の問題点から見た比較文学上の論点
成績評価方法	発表の内容と討議の参加態度とによって評価する。
教科書	1. 川瀬一馬氏編, 『金沢文庫本 白氏文集 一』 勉誠社、1984 年
参考書	1. 平岡武夫氏・今井清氏校定, 『白氏文集 第一冊』 京都大学人文科学研究所、1971 年 2. 平岡武夫氏, 『中国詩文選 17 白居易』 筑摩書房、1977 年 3. 花房英樹氏, 『白楽天』 清水書院、1990 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:2 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	白居易, 閑適詩, 金沢文庫本, 旧鈔本

授業科目名	日本古代文学研究 (2A)
科目番号	02DS323
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 2
担当教員	谷口 孝介
授業概要	前時代の要素を取り入れつつ古今歌風を形成した、素性の古今集歌を逐一取りあげて注解を施す。詩的言語の注解方法に習熟するとともに『万葉集』から『古今和歌集』に到る古代和歌の表現形成を探究する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とする。
授業計画	第 1 回講義の目的と方法 第 2 回資料について 第 3 回古今集 722 番歌の異同 第 4 回古今集 722 番歌の異同についての討議 第 5 回古今集 722 番歌の注解 第 6 回古今集 722 番歌の注解についての討議 第 7 回古今集 799 番歌の異同 第 8 回古今集 799 番歌の異同についての討議 第 9 回古今集 799 番歌の注解 第 10 回古今集 799 番歌の注解についての討議 第 11 回古今集 802 番歌の異同 第 12 回古今集 802 番歌の異同についての討議 第 13 回古今集 802 番歌の注解 第 14 回古今集 802 番歌の注解についての討議 第 15 回古今集素性恋歌の特質について
成績評価方法	分担報告と授業参加態度とにより評価する。
教科書	とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。
参考書	1. 久曾神昇氏,『古今和歌集成立論』風間書房、1960、1961 年 2. 西下経一氏・滝沢貞夫氏編,『古今集校本』笠間書院、1977 年 3. 片桐洋一氏,『古今和歌集全評釈』講談社、1998 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:2 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古今和歌集, 素性, 恋歌, 注解, 万葉集

授業科目名	日本古代文学研究 (2B)
科目番号	02DS324
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 2
担当教員	谷口 孝介
授業概要	素性の古今集歌を逐一取りあげて注解を施す。とくに諸本の異同に注目することで、古今集歌表現の機微を探求する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	古代和歌の表現の検討を通して、文学研究の方法を模索する。
授業計画	第 1 回講義の目的と方法 第 2 回資料について 第 3 回古今集 830 番歌の異同 第 4 回古今集 830 番歌の異同についての討議 第 5 回古今集 830 番歌の注解 第 6 回古今集 830 番歌の注解についての討議 第 7 回古今集 947 番歌の異同 第 8 回古今集 947 番歌の異同についての討議 第 9 回古今集 947 番歌の注解 第 10 回古今集 947 番歌の注解についての討議 第 11 回古今集 1012 番歌の異同 第 12 回古今集 1012 番歌の異同についての討議 第 13 回古今集 1012 番歌の注解 第 14 回古今集 1012 番歌の注解についての討議 第 15 回素性歌から見た古今歌風の特質
成績評価方法	分担報告と授業参加態度とにより評価する。
教科書	とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。
参考書	1. 久曾神昇氏、『古今和歌集成立論』風間書房、1960、1961 年 2. 西下経一氏・滝沢貞夫氏編、『古今集校本』笠間書院、1977 年 3. 片桐洋一氏、『古今和歌集全評釈』講談社、1998 年
オフィスアワー	谷口 孝介 木:2 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古今和歌集, 素性, 恋歌, 注解, 万葉集

授業科目名	日本中古文文学研究 (2A)
科目番号	02DS343
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』注釈史研究。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	『源氏物語』注釈史を学ぶ。古注所引の歴史記述に注目し、年代記類生成の現場を探る。あわせて、問題を自分のものとするために考察を進める技術、知識を得る。
授業計画	第 1 回資料の調べ方にかんする演習。 第 2 回『源氏物語』注釈書概説 (古注)。 第 3 回『源氏物語』注釈書概説 (旧注)。 第 4 回『源氏物語』注釈書概説 (新注)。 第 5 回年代記類概説。 第 6 回『源氏物語』古注所引の歴史記述について。 第 7 回『源氏物語』古注所引の年代記類にかんする演習。 第 8 回『源氏物語』注釈書と古字書類。 第 9 回『源氏物語』注釈書と類書。 第 10 回『源氏物語』注釈書と重宝記類。 第 11 回近世の出版文化と『源氏物語』注釈。 第 12 回近代初期の出版文化と『源氏物語』注釈。 第 13 回『源氏物語』本文と注釈史 (第一回)。 第 14 回『源氏物語』本文と注釈史 (第二回)。 第 15 回まとめ。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	プリントを使用する。
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 『河海抄』, 『花鳥余情』

授業科目名	日本中古文学研究 (2B)
科目番号	02DS344
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』注釈所引の歴史記述にかんする研究。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	『源氏物語』注釈史を学ぶ。私撰国史の生成と『源氏物語』注釈史のかかわりについて考察する。
授業計画	第 1 回 『源氏物語』注釈史概説。 第 2 回 官撰国史と私撰国史。 第 3 回 『源氏物語』注釈と『一代要記』(第一回)。 第 4 回 『源氏物語』注釈と『一代要記』(第二回)。 第 5 回 『源氏物語』注釈と『一代要記』(第三回)。 第 6 回 『源氏物語』注釈と『帝王編年記』(第一回)。 第 7 回 『源氏物語』注釈と『帝王編年記』(第二回)。 第 8 回 『源氏物語』注釈と『帝王編年記』(『三教指帰』注とのかかわり。第一回)。 第 9 回 『源氏物語』注釈と『帝王編年記』(『三教指帰』注とのかかわり。第二回)。 第 10 回 『源氏物語』注釈と『扶桑略記』。 第 11 回 『源氏物語』注釈と『扶桑略記』(世界認識の問題)。 第 12 回 『源氏物語』注釈と『扶桑略記』(時間軸に注目して)。 第 13 回 『源氏物語』注釈と私撰国史の生成(第一回)。 第 14 回 『源氏物語』注釈と私撰国史の生成(第二回)。 第 15 回 まとめ。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	プリントを使用する。
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 『河海抄』, 『一代要記』, 『帝王編年記』

授業科目名	日本中古文学演習 (2A)
科目番号	02DS353
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』紅葉賀巻を、花宴巻との関連を考えながらよむ。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 01B4518 と同一。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	『源氏物語』紅葉賀巻、花宴をとりあげる。これらが『源氏物語』のなかでも最も人気のある巻であったことを意識しながら、現代人が共有しにくい注釈史の問題に迫る。
授業計画	第 1 回授業のすすめ方にかんする解説。 第 2 回『源氏物語』注釈史概説 (第一回)。 第 3 回『源氏物語』注釈史概説 (第二回)。 第 4 回『源氏物語』紅葉賀巻、花宴巻演習 (導入演習)。 第 5 回『源氏物語』の諸本について。 第 6 回『源氏物語』諸本と紅葉賀巻、花宴巻の問題。 第 7 回『源氏物語』諸本と紅葉賀巻、花宴巻絵画化の問題。 第 8 回『源氏物語』注釈史と歌学のかかわり (概説)。 第 9 回『源氏物語』注釈史と歌学のかかわり (「六百番歌合」)。 第 10 回『源氏物語』注釈史と歌学のかかわり (『八雲御抄』)。 第 11 回『源氏物語』注釈史と平家文化 (『平家物語』に注目して)。 第 12 回『源氏物語』注釈史と平家文化 (平家時代の記録に注目して)。 第 13 回年立研究と紅葉賀巻。 第 14 回年立研究と花宴巻。 第 15 回まとめの討議。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	1. 『源氏物語 (一)』 (岩波文庫)
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 『河海抄』, 歌学書

授業科目名	日本中古文文学演習 (2B)
科目番号	02DS354
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』紅葉賀巻、花宴巻をよむ。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 01B4519 と同一。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	『源氏物語』紅葉賀巻、花宴巻をよむ。『源氏物語』とその注釈双方に常識として共有されていたものについて問い、これらの巻が愛された空間をあらわし出すことをこころみる。
授業計画	第 1 回 『源氏物語』概説。 第 2 回 『源氏物語』注釈史概説 (古注)。 第 3 回 『源氏物語』注釈史概説 (旧注)。 第 4 回 『源氏物語』紅葉賀巻演習 (冒頭場面に注目して)。 第 5 回 『源氏物語』紅葉賀巻演習 (冒頭部分の異文に注目して)。 第 6 回 『源氏物語』紅葉賀巻演習 (中世の年立研究に注目して)。 第 7 回 『源氏物語』紅葉賀巻演習 (本居宣長の年立研究に注目して)。 第 8 回 『源氏物語』紅葉賀巻演習 (『河海抄』に注目して)。 第 9 回 『源氏物語』紅葉賀巻演習 (『花鳥余情』に注目して)。 第 10 回 『源氏物語』紅葉賀巻、花宴巻演習 (一条兼良の有職故実研究とのかかわり)。 第 11 回 『源氏物語』花宴巻演習 (赤色袍の問題)。 第 12 回 『源氏物語』花宴巻演習 (史上の例と『源氏物語』注釈 第一回)。 第 13 回 『源氏物語』花宴巻演習 (史上の例と『源氏物語』注釈 第二回)。 第 14 回 『源氏物語』紅葉賀、花宴巻演習 (連歌師の興味)。 第 15 回 まとめの討議。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	1. 『源氏物語 (一)』 (岩波文庫)
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 『河海抄』, 『花鳥余情』, 年立研究, 本居宣長

授業科目名	日本近世文学研究 (2A)
科目番号	02DS383
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	清登 典子
授業概要	原本の出現した『夜半亭蕪村句集』に見える新出句のうち春の発句について、一句一句詳しい検討を加えて解釈していく。受講生の発表と討議に基づいて授業を進めていく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	従来、解釈のされていない蕪村の新出句のうち春の発句について、語句の検討を通じて解釈を加えていくことで、江戸中期の俳諧表現の特色について理解を深める。
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 受講生の担当発句についての発表と全体での討議 第 3 回 同上 第 4 回 同上 第 5 回 同上 第 6 回 同上 第 7 回 同上 第 8 回 同上 第 9 回 同上 第 10 回 同上 第 11 回 同上 第 12 回 同上 第 13 回 同上 第 14 回 同上 第 15 回 授業のまとめ
成績評価方法	出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	授業時に指示する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	火曜日 4 限 (要予約) 人社棟 A604 内線 4140kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	近世俳諧, 発句, 解釈

授業科目名	日本近世文学研究 (2B)
科目番号	02DS384
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	清登 典子
授業概要	原本の出現した『夜半亭蕪村句集』に見える新出句のうち夏の発句について、一句一句詳しい検討を加えて解釈していく。受講生の発表と討議に基づいて授業を進めていく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	従来、解釈のされていない蕪村の新出句のうち、夏の発句について、語句の検討を通じて解釈することで、江戸中期の俳諧表現の特色について理解を深める。
授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 受講生の担当発句についての発表と全体討議 第 3 回 同上 第 4 回 同上 第 5 回 同上 第 6 回 同上 第 7 回 同上 第 8 回 同上 第 9 回 同上 第 10 回 同上 第 11 回 同上 第 12 回 同上 第 13 回 同上 第 14 回 同上 第 15 回 まとめ
成績評価方法	出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	授業時に指示する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	火曜 4 限 (要予約) 人社棟 A604 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	蕪村, 近世俳諧, 発句, 解釈

授業科目名	日本近世文学演習 (2A)
科目番号	02DS393
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	清登 典子
授業概要	近世文学についてのこれまでの研究の流れと現在の研究動向とを踏まえ、受講生それぞれが自身の研究の立ち位置と向かうべき方向とを見定め、研究テーマについて発表し、他の受講生からの疑問、批判を受けることで、考えを深めていく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	近世文学についての受講生それぞれの研究テーマを深め、他の受講生からの疑問、批判を受けることで、自身の研究の方向性を見定めていくことを目指す。
授業計画	それぞれの研究テーマについての発表と全体討議によって授業を進める。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 担当者の発表と全体討議 第 3 回 同上 第 4 回 同上 第 5 回 同上 第 6 回 同上 第 7 回 同上 第 8 回 同上 第 9 回 同上 第 10 回 同上 第 11 回 同上 第 12 回 同上 第 13 回 同上 第 14 回 同上 第 15 回 まとめ
成績評価方法	出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	火曜日 4 限 (要予約) 人社棟 A604 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	近世文学, 研究テーマ

授業科目名	日本近世文学演習 (2B)
科目番号	02DS394
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	清登 典子
授業概要	近世文学研究のこれまでの流れと現在の研究動向とを踏まえたうえで、受講生それぞれが自身の研究テーマについて発表し、他の受講生からの批判、疑問を受けることで、自身の考えを深めていく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	近世文学研究の動向を踏まえ、受講生それぞれの研究テーマを深め、他の受講生からの疑問、批判を受けることで、自身の研究の方向性を見定めていくことを目指す。
授業計画	それぞれの研究テーマについての受講生の発表と全体討議によって授業を進める。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 近世文学の研究動向について 第 3 回 受講生の研究テーマに関する発表と全体討議 第 4 回 同上 第 5 回 同上 第 6 回 同上 第 7 回 同上 第 8 回 同上 第 9 回 同上 第 10 回 同上 第 11 回 同上 第 12 回 同上 第 13 回 同上 第 14 回 同上 第 15 回 まとめ
成績評価方法	出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	火曜日 4 限 (要予約) 人社棟 A604 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	近世文学研究, 研究動向, 研究テーマ

授業科目名	日本近代文学研究 (2A)
科目番号	02DS403
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	馬場 美佳
授業概要	明治・大正期を中心に、日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 01B4369 と同一。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
授業計画	文芸時評をてがかりに、批評されている作品が同時代のいかなる文学観や創作方法を念頭に置いて書かれているかについて考える。 第 1 回明治期の文学の特徴及び位置づけについて概説 第 2 回明治初年代の特徴について概説 第 3 回明治 20 年代の小説 第 4 回明治 20 年代の韻文 第 5 回明治 20 年代の批評 第 6 回明治 30 年代の小説 第 7 回明治 30 年代の韻文 第 8 回明治 30 年代の批評 第 9 回明治 40 年代の小説 第 10 回明治 40 年代の韻文 第 11 回明治 40 年代の批評 第 12 回大正期の小説 第 13 回大正期の韻文 第 14 回大正期の批評 第 15 回まとめ
成績評価方法	受講者自身の発表内容と各回演習への参加態度で評価する。
教科書	テキストの詳細は授業初回時に提示する。配布資料は初出を用いることとし、発表担当者が人数分用意する。
参考書	1. 『文藝時評大系』明治篇・大正篇 (ゆまに書房)
オフィスアワー	木曜 5 限 (随時メール等による相談にも応じる)
TF・TA	
キーワード	日本近代文学, 明治文学, 大正文学

授業科目名	日本近代文学研究 (2B)
科目番号	02DS404
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	馬場 美佳
授業概要	明治・大正期を中心に、日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 01B4370 と同一。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日本近代文学研究の基礎力・応用力を涵養する。
授業計画	文芸時評をてがかりに、批評されている作品が同時代のいかなる文学観や創作方法を 念頭に置いて書かれているかについて考える。 第 1 回昭和期の文学の特徴及び位置づけについて概説 第 2 回昭和初年代の文学 第 3 回昭和初年代の批評 第 4 回昭和 10 年代の文学 第 5 回昭和 10 年代の批評 第 6 回昭和 20 年代の文学 第 7 回昭和 20 年代の批評 第 8 回昭和 30 年代の文学 第 9 回昭和 30 年代の批評 第 10 回昭和 40 年代の文学 第 11 回昭和 40 年代の批評 第 12 回昭和 50 年代の文学 第 13 回昭和 50 年代の批評 第 14 回平成期の文学 第 15 回平成期の批評
成績評価方法	受講者自身の発表内容と各回演習への参加態度で評価する。
教科書	テキストの詳細は授業初回時に提示する。配布資料は初出を用いることとし、発表担 当者が人数分用意する。
参考書	1. 『文藝時評大系』昭和篇Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(ゆまに書房)
オフィスアワー	木曜 5 限 (随時メール等の相談にも応じる)
TF・TA	
キーワード	日本近代文学, 昭和文学

授業科目名	日本近代文学演習 (2A)
科目番号	02DS413
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行うこととする。 作品解釈を通して研究方法および論文のテーマを明確にすることを目指す。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	日本近代文学の文芸雑誌等を一次資料とし、その文学的歴史的意義について調査報告し、自ら評価することをめざす。
授業計画	戦後の文芸雑誌『総合文化』について、調査・報告をしていく。 第 1 回演習についてのガイダンス等 第 2 回日本近代文学と出版文化について概説 第 3 回個人演習発表 1 - 基礎調査編 第 4 回個人演習発表 1 - 評価編 第 5 回個人演習発表 2 - 基礎調査編 第 6 回個人演習発表 2 - 評価編 第 7 回以下同
成績評価方法	演習発表の内容および討議等への参加態度による。
教科書	テキストは演習担当箇所について各自で印刷し、配布すること。担当箇所は初回に決定する。 1. 雑誌『総合文化』
参考書	1. 各種文学史
オフィスアワー	木曜 5 限 (随時、メール等による相談に応じる)
TF・TA	
キーワード	日本近代文学, 昭和文学, 戦後文学

授業科目名	日本近代文学演習 (2B)
科目番号	02DS414
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	馬場 美佳
授業概要	各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行うこととする。 作品解釈を通して研究方法および論文のテーマを明確にすることを目指す。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	日本近代文学の文芸雑誌等を一次資料とし、その文学的歴史的意義について調査報告し、自ら評価することをめざす。
授業計画	戦後の文芸雑誌『総合文化』について、調査・報告さらにすすめていく。 第 1 回演習についてのガイダンス 第 2 回『総合文化』に関する基礎的背景についての確認。 第 3 回個人演習発表 1 - 基礎調査編 第 4 回個人演習発表 1 - 評価編 第 5 回個人演習発表 2 - 基礎調査編 第 6 回個人演習発表 2 - 評価編 第 7 回以下同
成績評価方法	演習発表内容および討議への参加態度による。
教科書	1. 『総合文化』
参考書	1. 各種文学史等
オフィスアワー	木曜 5 限 (随時メール等による相談に応じます)
TF・TA	
キーワード	日本近代文学, 昭和文学, 戦後文学

授業科目名	イギリス文学史研究 (2A)
科目番号	02DS503
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代戯曲研究。シェイクスピアの中期悲劇を中心に、基礎的読解と議論を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	この授業は、(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイ力の構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この 2 点を軸にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養したい。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回*Julius Caesar*1 幕 1 場の講読および議論 第 3 回*Julius Caesar*1 幕 2 場前半部の講読および議論 第 4 回*Julius Caesar*1 幕 2 場中盤部の講読および議論 第 5 回*Julius Caesar*1 幕 2 場後半部の講読および議論 第 6 回*Julius Caesar*1 幕 3 場前半部の講読および議論 第 7 回*Julius Caesar*1 幕 3 場後半部の講読および議論 第 8 回*Julius Caesar*2 幕 1 場前半部の講読および議論 第 9 回*Julius Caesar*2 幕 1 場中盤部の講読および議論 第 10 回*Julius Caesar*2 幕 1 場後半部の講読および議論 第 11 回*Julius Caesar*2 幕 2 場の講読および議論 第 12 回*Julius Caesar*2 幕 3・4 場の講読および議論 第 13 回*Julius Caesar*3 幕 1 場前半部の講読および議論 第 14 回*Julius Caesar*3 幕 1 場中盤部の講読および議論 第 15 回*Julius Caesar*3 幕 1 場後半部の講読および議論
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等) を 40% の割合で、また (2) 学期末レポートを 60% の割合で評価する。
教科書	1. David Daniell, ed., *Julius Caesar*, The Arden Shakespeare, Third Series (London: Thomson Learning, 1998). ISBN:978-1-903436-21-9
参考書	1. Robert S. Miola, *Shakespeare's Rome* (Cambridge: Cambridge UP, 1983) 2. Steven Mullaney, *The Place of the Stage: License, Play and Power in Renaissance England* (Chicago: U of Chicago P, 1988). 3. John Drakakis, 3. John Drakakis, "'Fashion it Thus': *Julius Caesar* and the Politics of Theatrical Representation," *Shakespeare Survey* 44(1992): 65-73.
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	初期近代戯曲。シェイクスピア。ローマ史劇。

授業科目名	イギリス文学史研究 (2B)
科目番号	02DS504
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代戯曲研究。シェイクスピアの中期悲劇を中心に、分析的読解と論文作成を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	この授業は、(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の発展的 技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイ力の構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達 目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の 意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研 究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こう した脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この 2 点を軸にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養した上で、オリジ ナリティのある論文作成のスキルを習得させる。
授業計画	第 1 回*Julius Caesar*3 幕 2 場前半部の講読および議論 第 2 回*Julius Caesar*3 幕 2 場中盤部の講読および議論 第 3 回*Julius Caesar*3 幕 2 場後半部並びに 3 幕 3 場の講読および議論 第 4 回*Julius Caesar*4 幕 1・2 場の講読および議論 第 5 回*Julius Caesar*4 幕 3 場前半部の講読および議論 第 6 回*Julius Caesar*4 幕 3 場中盤部の講読および議論 第 7 回*Julius Caesar*4 幕 3 場後半部の講読および議論 第 8 回*Julius Caesar*5 幕 1・2 場の講読および議論 第 9 回*Julius Caesar*5 幕 3 場の講読および議論 第 10 回*Julius Caesar*5 幕 4・5 場の講読および議論 第 11 回*Julius Caesar*に関する文献講読 (1) 第 12 回*Julius Caesar*に関する文献講読 (2) 第 13 回*Julius Caesar*に関する文献講読 (3) 第 14 回*Julius Caesar*に関する論文作成 (1) 第 15 回*Julius Caesar*に関する論文作成 (2)
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度 等) を 30% の割合で、また (2) 学期末レポートを 70% の割合で評価する。
教科書	1. David Daniell, ed.,*Julius Caesar*, The Arden Shakespeare, Third Series (London: Thomson Learning, 1998). ISBN:978-1-903436-21-9
参考書	1. Robert S. Miola,*Shakespeare's Rome* (Cambridge: Cambridge UP, 1983) 2. Steven Mullaney,*The Place of the Stage: License, Play and Power in Renais- sance England* (Chicago: U of Chicago P, 1988) 3. John Drakakis,"'Fashion it Thus': *Julius Caesar* and the Politics of Theatrical Representation," *Shakespeare Survey 44(1992): 65-73

オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	初期近代戯曲。シェイクスピア。ローマ史劇

授業科目名	イギリス文学史演習 (2A)
科目番号	02DS513
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 1
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代英詩研究。17 世紀の形而上派詩人を中心に、基礎的読解と議論を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	この演習は、(1)17 世紀形而上派詩人の英詩に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイカの構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながら形而上派詩人の英詩の意味を特定する作業を行う。また、形而上派詩人の英詩研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスは各エディションの脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本演習では、この 2 点を軸に形而上派詩人の英詩を読み解く能力を涵養したい。
授業計画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 John Donne の英詩の講読と議論 (1) 第 3 回 John Donne の英詩の講読と議論 (2) 第 4 回 John Donne の英詩の講読と議論 (3) 第 5 回 John Donne の英詩の講読と議論 (4) 第 6 回 John Donne の英詩の講読と議論 (5) 第 7 回 John Donne の英詩の講読と議論 (6) 第 8 回 George Herbert の英詩の講読と議論 (1) 第 9 回 George Herbert の英詩の講読と議論 (2) 第 10 回 George Herbert の英詩の講読と議論 (3) 第 11 回 George Herbert の英詩の講読と議論 (4) 第 12 回 George Herbert の英詩の講読と議論 (5) 第 13 回 George Herbert の英詩の講読と議論 (6) 第 14 回 John Donne に関する文献講読 第 15 回 George Herbert に関する文献講読
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い, 授業中の発表成績, 授業時の活動状況, 授業態度等) を 40% の割合で、また (2) 学期末レポートを 60% の割合で評価する。
教科書	1. Colin Burrow, ed., *Metaphysical Poetry*, Penguin Classics (London: Penguin, 2006). ISBN:978-0140424447
参考書	1. A.J. Smith, *Sacred Earth, Metaphysical Poetry and the Advance of Science* (Oxford: Oxford UP, 1985) 2. Robert Ellrodt, *Seven Metaphysical Poets: A Structural Study of the Unchanging Self* (Oxford: Oxford UP, 2000) 3. A.J. Smith, *Metaphysical Wit* (Cambridge: Cambridge UP, 2006)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	形而上派詩人。John, Donne。George, Herbert。

授業科目名	イギリス文学史演習 (2B)
科目番号	02DS514
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 1
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代英詩研究。17 世紀の形而上派詩人を中心に、分析的読解と論文作成を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	この演習は、(1) 形而上派詩人の英詩に関する読解の発展的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイ力の構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED 等に丹念に当たりながら形而上派詩人の英詩の意味を特定する作業を行う。また、形而上派詩人の英詩研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスは各エディションの脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本演習では、この 2 点を軸に形而上派詩人の英詩を読み解く能力を涵養した上で、オリジナリティのある論文作成のスキルを習得させる。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回 Richard Crashaw の英詩の講読と議論 (1) 第 3 回 Richard Crashaw の英詩の講読と議論 (2) 第 4 回 Richard Crashaw の英詩の講読と議論 (3) 第 5 回 Richard Crashaw の英詩の講読と議論 (4) 第 6 回 Henry Vaughan の英詩の講読と議論 (1) 第 7 回 Henry Vaughan の英詩の講読と議論 (2) 第 8 回 Henry Vaughan の英詩の講読と議論 (3) 第 9 回 Henry Vaughan の英詩の講読と議論 (4) 第 10 回 Thomas Traherne の英詩の講読と議論 (1) 第 11 回 Thomas Traherne の英詩の講読と議論 (2) 第 12 回形而上派詩人に関する文献講読 (1) 第 13 回形而上派詩人に関する文献講読 (2) 第 14 回形而上派詩人に関する論文作成 (1) 第 15 回形而上派詩人に関する論文作成 (2)
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い, 授業中の発表成績, 授業時の活動状況, 授業態度等) を 30% の割合で、また (2) 学期末レポートを 70% の割合で評価する。
教科書	1. Colin Burrow, ed., *Metaphysical Poetry*, Penguin Classics (London: Penguin, 2006). ISBN:978-0140424447
参考書	1. A.J. Smith, *Sacred Earth, Metaphysical Poetry and the Advance of Science* (Oxford: Oxford UP, 1985) 2. Robert Ellrodt, *Seven Metaphysical Poets: A Structural Study of the Unchanging Self* (Oxford: Oxford UP, 2000) 3. A.J. Smith, *Metaphysical Wit* (Cambridge: Cambridge UP, 2006)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	形而上派詩人。Richard, Crashaw。Henry, Vaughan。

授業科目名	アメリカ文学研究 (2A)
科目番号	02DS623
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	知識史の基本文献を読む。今年度は、西洋知識史を読む。
備考	授業は日本語と英語の両方で行う。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	院生各自が博士論文執筆のテーマに沿った発表を行う。
授業計画	第 1 回序論 第 2 回以下、院生各自のテーマに沿った発表
成績評価方法	平常点:授業参加 (単なる「出席」とは異なる)、担当時の発表、担当していないときには質問 学術ジャーナル掲載可能なレベルの論文
教科書	
参考書	
オフィスアワー	火:4 時限 人文社会学系棟 A514 washizu.hiroko.gp@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	博士論文

授業科目名	アメリカ文学研究 (2B)
科目番号	02DS624
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	知識史の基本文献を読む。今年度は、西洋知識史を扱う。
備考	授業は日本語と英語の両方で行う。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	院生各自が博士論文執筆のテーマに沿った発表を行う。
授業計画	第 1 回序論 第 2 回以下、院生各自のテーマに沿った発表
成績評価方法	平常点:授業参加 (単なる「出席」とは異なる)、担当時の発表、担当していないときには質問 学術ジャーナル掲載可能なレベルの論文
教科書	
参考書	
オフィスアワー	火:4 時限 人文社会学系棟 A514 washizu.hiroko.gp@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	博士論文

授業科目名	アメリカ文学演習 (2A)
科目番号	02DS633
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	南北戦争前アメリカ散文における 知識の枠組み についての基本文献を読み、院生ひとりひとりの専門と関連付けて考えたものを発表する。
備考	授業は日本語と英語の両方で行う。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	Peter Dear による Scientific Revolution についての文献を読み、知識/科学革命の概観を知る。
授業計画	第 1 回序論 第 2 回 Preface + Introduction 第 3 回”What Was Worth Knowing” in 1500 第 4 回 Humanism and Ancient Wisdom: How to Learn Things in the Sixteenth Century 第 5 回 The Alchemist, the Craftsman, and the Scholar 第 6 回 Mathematics Challenges Philosophy: Galileo, Kepler, and the Mathematical Practitioners 第 7 回 Mechanism and Corpuscles: Descartes Builds a Universe 第 8 回 Extra-Curricular Activities: New homes for Natural Knowledge 第 9 回 Experiment: How to Learn Things about Nature in the Seventeenth Century 第 10 回 Cartesians and Newtonians 第 11 回 Conclusion + まとめ 第 12 回参考文献から同テーマのものを読む 第 13 回参考文献から同テーマのものを読む 第 14 回参考文献から同テーマのものを読む 第 15 回予備日
成績評価方法	
教科書	
参考書	1. Peter Dear, Revolutionizing the Sciences: European Knowledge and Its Ambitions, 1500-1700. 2nd ed. (Princeton: Princeton UP, 2009)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	知識/科学革命, 知識史

授業科目名	アメリカ文学演習 (2B)
科目番号	02DS634
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	南北戦争前アメリカ散文における 知識の枠組み についての基本文献を読み、院生ひとりひとりの専門と関連付けて考えたものを発表する。
備考	授業は日本語と英語の両方で行う。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	Enlightenment についての文献を読み、啓蒙主義思想の概観を知る。
授業計画	第 1 回序論 第 2 回 Introduction: What is Enlightenment? 第 3 回 All Coherence Gone 第 4 回 Bringing Pith Back In 第 5 回 The Fatherless World(1) 第 6 回 The Fatherless World(2) 第 7 回 The Science of Man 第 8 回 Discovering Man in Nature 第 9 回 The Defense of Civilization 第 10 回 The Great Society of Mankind 第 11 回 The Vast Commonwealth of Nature 第 12 回 Conclusion: Enlightenment and Its Enemies 第 13 回参考文献からどうてーまのものをよむ 第 14 回参考文献から同テーマのものを読む 第 15 回よびび
成績評価方法	平常点:授業参加 (単なる「出席」とは異なる)、担当時の発表、担当していないときには質問 学術ジャーナル掲載可能なレベルの論文
教科書	1. Anthony Padgen, _The Enlightenment: And Why it Still Matters_ (Oxford UP, 2015)
参考書	
オフィスアワー	火:4 時限 人文社会学系棟 A514 washizu.hiroko.gp@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	啓蒙主義思想, 知識史

授業科目名	フランス文学史研究 (2A)
科目番号	02DS703
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	増尾 弘美
授業概要	第 1 次世界大戦前後のフランスの状況下での小説について考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	第一次世界大戦前後のフランスで、小説『失われた時を求めて』を執筆中であったブルーストが、同時代の社会情勢をどのように作品に生かしているかを追究する。
授業計画	ブルーストについての研究論文を読み込み、原典を精査することによって、第一次世界大戦前後のフランスの状況を考察する。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	1. A. Compagnon, N. Mauriac-Dyer (dir.), Du c ô t é de chez Swann ou Le Cosmopolitisme d ' un roman fran ç ais, Champion, 2016
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	ブルースト, 第一次世界大戦

授業科目名	フランス文学史研究 (2B)
科目番号	02DS704
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	増尾 弘美
授業概要	第 1 次世界大戦前後のフランスの状況下でのユダヤ人問題、スノビズム等について小説をもとに考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	第一次世界大戦前後のフランスで、小説『失われた時を求めて』を執筆中であったブルーストが、ユダヤ人問題やスノビズム等をどのように作品に生かしているかを追究する。
授業計画	ブルーストについての研究論文を読み込み、原典を精査することによって、ユダヤ人問題やスノビズムについて考察する。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	1. Ph. Chardin, N. Mauriac-Dyer (dir.), Proust écrivain de la Premi è re Guerre mondiale, Editions Universitaires de Dijon, 2014
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	ブルースト, 第一次世界大戦, 反ユダヤ主義

授業科目名	フランス文学研究 I(2A)
科目番号	02DS713
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	小川 美登里
授業概要	文学と文学を取り巻くさまざまなテーマを、テキストの精読や分析をとおして行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス文学史に関する広範な知識を背景とし、二十世紀以降の文学の動向について 歴史・思想・文化的な側面から論ずるとともに、個々のテキストを精読する能力を養 う。
授業計画	二十世紀以降の文学運動を概観しながら、そこからあぶり出される問題を抽出し、具 体的な作品をとおして検討する。 第 1 回イントロダクションと問題提起 (1) 第 2 回イントロダクションと問題提起 (2) 第 3 回テキスト分析 (1) 第 4 回テキスト分析 (2) 第 5 回テキスト分析 (3) 第 6 回テキスト分析 (4) 第 7 回テキスト分析 (5) 第 8 回テキスト分析 (6) 第 9 回テキスト分析 (7) 第 10 回テキスト分析 (8) 第 11 回テキスト分析 (9) 第 12 回研究発表とディスカッション (1) 第 13 回研究発表とディスカッション (2) 第 14 回研究発表とディスカッション (3) 第 15 回まとめ
成績評価方法	予習と授業態度、課題への取り組み、レポートなどを総合的に判断する
教科書	適宜、コピーする
参考書	授業において具体的に指示する
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス文学, フランス語, 文化, 歴史, 思想。

授業科目名	フランス文学研究 I(2B)
科目番号	02DS714
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	小川 美登里
授業概要	文学と文学を取り巻くさまざまなテーマを、テキストの精読や分析をとおして行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス文学史についての広範な知識をもとに、20 世紀以降の文学が提示する問題を深く分析する能力を身につける。
授業計画	二十世紀以降の文学作品が提示する問題を読み解くことによって、社会と個人、文学の問題について省察する。 第 1 回イントロダクションと問題提起 (1) 第 2 回イントロダクションと問題提起 (2) 第 3 回テキスト分析 (1) 第 4 回テキスト分析 (2) 第 5 回テキスト分析 (3) 第 6 回テキスト分析 (4) 第 7 回テキスト分析 (5) 第 8 回発表とディスカッション (1) 第 9 回発表とディスカッション (2) 第 10 回発表とディスカッション (3) 第 11 回発表とディスカッション (4) 第 12 回発表とディスカッション (5) 第 13 回方法論と省察 (1) 第 14 回方法論と省察 (2) 第 15 回まとめ
成績評価方法	予習と授業態度、課題への取り組み、レポートなどを総合的に判断する。
教科書	適宜、コピーして配布する。
参考書	授業において具体的に指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス文学, フランス語, 歴史, 文化, 思想。

授業科目名	フランス文学研究 II(2A)
科目番号	02DS723
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	受講生の学位論文執筆に資する文学作品を講読し考察する。研究発表も適宜行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	受講者の論文執筆に資するよう、関連する文学作品を選定した上で読み込む。
授業計画	開講時に受講者と話し合っ文学作品を選定し、徹底して読み込む。研究発表も適宜 行う。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス文学

授業科目名	フランス文学研究 II(2B)
科目番号	02DS724
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	受講生の学位論文執筆に資する研究論文を講読し考察する。研究発表も適宜行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	受講者の論文執筆に資するよう、受講者の研究テーマに沿った研究論文を読み込む。
授業計画	開講時に受講者と話し合っ、研究論文を選定し、他の論文と比較しながら徹底して読み込む。研究発表も適宜行う。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス文学

授業科目名	フランス文学特殊研究 (2A)
科目番号	02DS733
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 1
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学史において二十世紀以降の文学の動向を、思想や文化の流れに沿って理解する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス文学に属する批評やテキストの精読をととして、二十世紀以降の思想や芸術が提示するプロブレマティックを明らかにする。
授業計画	フィクション、批評など、ジャンルに関わらず、二十世紀以降の先鋭的な問題を提起するテキストを扱う。 第 1 回イントロダクションと問題提起 (1) 第 2 回イントロダクションと問題提起 (2) 第 3 回テキスト分析 (1) 第 4 回テキスト分析 (2) 第 5 回テキスト分析 (3) 第 6 回テキスト分析 (4) 第 7 回テキスト分析 (5) 第 8 回テキスト分析 (6) 第 9 回テキスト分析 (7) 第 10 回テキスト分析 (8) 第 11 回発表とディスカッション (1) 第 12 回発表とディスカッション (2) 第 13 回発表とディスカッション (3) 第 14 回まとめ (1) 第 15 回まとめ (2)
成績評価方法	予習と授業態度、課題への取り組みとレポートを総合的に判断する。
教科書	適宜、コピーして配布する。
参考書	授業において具体的に指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス文学, フランス語, 批評, 芸術, 哲学。

授業科目名	フランス文学特殊研究 (2B)
科目番号	02DS734
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 1
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学史において二十世紀以降の文学の動向を、思想や文化の流れに沿って理解する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フィクション、批評などジャンルを問わず、二十世紀の先鋭的なテキストをとおしてうかびあがる思想的・社会的・芸術的な問題を省察する能力を養う。
授業計画	文学だからこそ掘み取ることのできるプロブレマティックを明らかにし、作品を支える方法論や哲学などを分析する。 第 1 回イントロダクションと問題提起 (1) 第 2 回イントロダクションと問題提起 (2) 第 3 回テキスト分析 (1) 第 4 回テキスト分析 (2) 第 5 回テキスト分析 (3) 第 6 回テキスト分析 (4) 第 7 回テキスト分析 (5) 第 8 回解釈と批評 (1) 第 9 回解釈と批評 (2) 第 10 回解釈と批評 (3) 第 11 回解釈と批評 (4) 第 12 回発表とディスカッション (1) 第 13 回発表とディスカッション (2) 第 14 回発表とディスカッション (3) 第 15 回まとめ
成績評価方法	予習と授業態度、課題への取り組みとレポートを総合的に判断する。
教科書	適宜、コピーし、配布する。
参考書	授業において具体的に指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス文学, フランス語, 批評, 芸術, 哲学。

授業科目名	ドイツ文学研究 I(2A)
科目番号	02DS803
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	相澤 啓一
授業概要	受講生の関心に応じてテーマを設定し、関連テキストの分析やその社会的歴史的背景を論じ、論文執筆の指導を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	学位論文に向けた研究の掘り下げに向けて、文献さがし、広い文脈からのテーマの見直し、基本文献の講読、論文の個別添削指導を行う。
授業計画	第 1 回この学期における参加者と具体的なテーマを確定し、1 学期の計画をたてる 第 2 回引き続きテーマについての策略を論じ、参考文献についてのリサーチを行い、今学期の計画をたてる。 第 3 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 4 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 5 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 6 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 7 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 8 回学期の中間発表を行う。 第 9 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 10 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 11 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 12 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 13 回計画に基づき、関係文献を輪読する。 第 14 回学期の最終発表を行う。 第 15 回今学期の成果に基づき、今後の研究方針についての検討を行う。 各参加者の研究の進捗状況に柔軟に対応する。
成績評価方法	授業への積極的な参加と毎回の課題の提出による
教科書	
参考書	
オフィスアワー	原則水曜 2 限ですが、随時行いますので、http://www.germanistik.jp/frage からアポを取って下さい 水:3 限 人文社会学系棟 A705 http://www.germanistik.jp/frage http://germanistik.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	ドイツ文学研究 I(2B)
科目番号	02DS804
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	相澤 啓一
授業概要	受講生の関心に応じてテーマを設定し、関連テキストの分析やその社会的歴史的背景を論ずる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	前学期に引き続き、学位論文に向けた研究の掘り下げに向けて、さらなる文献検索、広い文脈からのテーマの見直し、基本文献の講読、論文の個別添削指導を行う。
授業計画	第 1 回この学期における参加者と具体的なテーマを確定し、1 学期の計画をたてる 第 2 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 3 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 4 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 5 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 6 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 7 回論文構想発表を行う 第 8 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 9 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 10 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 11 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 12 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 13 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 14 回計画に基づき、関係文献を輪読し、個別論文指導を行なう。 第 15 回論文構想発表
成績評価方法	授業への積極的参加と毎回の課題との取り組みによる
教科書	
参考書	
オフィスアワー	原則水曜 2 限ですが、随時行いますので、http://www.germanistik.jp/frage からアポを取って下さい 水:3 限 人文社会学系棟 A705 http://www.germanistik.jp/frage http://germanistik.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	ドイツ文学演習 (2A)
科目番号	02DS823
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	相澤 啓一
授業概要	日独両言語での読解力、発信力を高めることを目的に、両言語による人文・社会系の多様な学術テキストを扱う。特に独→日方向の理解に比重を置く。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	日独両言語での読解力、発信力を高めることを目的に、両言語の学術テキストの翻訳演習を行う
授業計画	ドイツ文学演習 (2B) と連続で集中的に授業を行う。日独と独日の学術的翻訳練習を交互にまぜながら、おおむね 3 週間毎に新たな教材を使用できるよう計画する。 第 1 回出席者の状況を見ながら、扱うテキストやレベルを定める。 第 2 回に向けた課題を決定する。 第 2 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 3 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 4 回参加者が提出する翻訳を検討する。次の課題を決定・配布する。 第 5 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 6 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 7 回参加者が提出する翻訳を検討する。次の課題を決定・配布する。 第 8 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 9 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 10 回参加者が提出する翻訳を検討する。次の課題を決定・配布する。 第 11 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 12 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 13 回参加者が提出する翻訳を検討する。次の課題を決定・配布する。 第 14 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 15 回参加者が提出する翻訳を検討し、全体を総括する。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	原則水曜 2 限ですが、随時行いますので、http://www.germanistik.jp/frage からアポを取って下さい 水:3 限 人文社会学系棟 A705 http://www.germanistik.jp/frage http://germanistik.jp
TF・TA	
キーワード	日独翻訳

授業科目名	ドイツ文学演習 (2B)
科目番号	02DS824
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	相澤 啓一
授業概要	日独両言語での読解力、発信力を高めることを目的に、両言語による人文・社会系の多様な学術テキストを扱う。特に日→独方向の理解に比重を置く。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	日独両言語での読解力、発信力を高めることを目的に、両言語の学術テキストの翻訳演習を行う
授業計画	ドイツ文学演習 (2A) と連続し、集中的に日独・独日の翻訳練習を通じて、言語能力向上に努める 第 1 回第 1 回なので、アドホックな言語練習や翻訳に関するレクチャーを行う 第 2 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 3 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 4 回参加者が提出する翻訳を検討する。次の課題を決定・配布する 第 5 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 6 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 7 回参加者が提出する翻訳を検討する。次の課題を決定・配布する。 第 8 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 9 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 10 回参加者が提出する翻訳を検討する。次の課題を決定・配布する。 第 11 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 12 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 13 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 14 回参加者が提出する翻訳を検討する。 第 15 回参加者が提出する翻訳を検討し、全体を総括する。
成績評価方法	毎回の出席と授業の取り組み、課題提出状況による
教科書	
参考書	
オフィスアワー	原則水曜 2 限ですが、随時行いますので、http://www.germanistik.jp/frage からアポを取ってください 水:3 限 人文社会学系棟 A705 http://www.germanistik.jp/frage http://germanistik.jp
TF・TA	
キーワード	独日翻訳

授業科目名	中国文学史研究 (2A)
科目番号	02DS903
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	小松 建男
授業概要	田曉菲『塵机録:陶淵明与手抄本文化研究』(中華書局 2007) を第二章まで読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	アメリカに於ける中国文学研究の動向を知る。
授業計画	第 1 回導入 第 2 回引言 (写本と異文) 第 3 回引言 (手抄本文化中的讀者與文本的關係) 第 4 回引言 (求真的誤區) 第 5 回引言 (生塵的机案) 第 6 回第一章 得失之間 (本章の目的) 第 7 回第一章 得失之間 (見山與望山) 第 8 回第一章 得失之間 (有人夜半持山去) 第 9 回第一章 得失之間 (得與失) 第 10 回第一章 得失之間 (亂曰) 第 11 回第二章 "先生不知何許人也" (本章の目的) 第 12 回第二章 "先生不知何許人也" (正名:五柳先生與六朝隱逸話語) 第 13 回第二章 "先生不知何許人也" (重構五柳先生傳記:四種) 帰田まで 第 14 回第二章 "先生不知何許人也" (重構五柳先生傳記:四種) 帰田以後 第 15 回まとめ
成績評価方法	論文の内容を的確に理解できているかによって評価される。
教科書	1. 田曉菲,『塵机録:陶淵明与手抄本文化研究』(中華書局 2007)
参考書	1. 孫康宜,『古典文學的現代觀』上海譯文出版社 2013 2. 王國瓊,「史傳中的陶淵明」『臺大中文學報』第 12 期 2000
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 古典, 文学

授業科目名	中国文学史研究 (2B)
科目番号	02DS904
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	小松 建男
授業概要	田曉菲『塵机録:陶淵明与手抄本文化研究』(中華書局 2007) を第三章から第五章まで読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	アメリカに於ける中国文学研究の動向を知る。
授業計画	第 1 回導入 第 2 回第三章 失去的田園:歸陶 (本章の目的) 第 3 回第三章 失去的田園:歸陶 (不受歡迎的植物) 第 4 回第三章 失去的田園:歸陶 (" 頗為老農 ") 第 5 回第三章 失去的田園:歸陶 (飲食與文字) 第 6 回第四章 飲食死亡與敘事 (本章の目的) 第 7 回第四章 飲食死亡與敘事 (得仙) 第 8 回第四章 飲食死亡與敘事 (何有於名?) 第 9 回第四章 飲食死亡與敘事 (閱讀到天明) 第 10 回第四章 飲食死亡與敘事文化想象的版圖和燃燒的文字 第 11 回第五章 成器 (本章の目的) 第 12 回第五章 成器中空的 (羞恥) 第 13 回第五章 成器 (榮木) 第 14 回第五章 成器清 (算與盤點) 第 15 回まとめ
成績評価方法	論文の内容を的確に理解できているかによって評価される。
教科書	1. 田曉菲,『塵机録:陶淵明与手抄本文化研究』(中華書局 2007)
参考書	1. 孫康宜,『古典文學的現代觀』上海譯文出版社 2013 2. 王國瓊,「史傳中的陶淵明」『臺大中文學報』第 12 期 2000
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 古典, 文学

授業科目名	中国文学史演習 (2A)
科目番号	02DS913
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	小松 建男
授業概要	杜甫の詩を森槐南『杜詩講義』を参考にしながら読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	日本の漢詩人による杜詩の分析を通して、実作者の視点からみた唐詩について考える
授業計画	第 1 回導入 第 2 回登瑤州城樓 第 3 回房兵曹胡馬 第 4 回畫鷹 第 5 回夜宴左氏莊 第 6 回春日夢李白 第 7 回對雪 第 8 回月夜 第 9 回春望 第 10 回遊龍門奉先寺 第 11 回望嶽 第 12 回兵車行 第 13 回飲中八仙歌 第 14 回哀江頭 第 15 回まとめ
成績評価方法	歴代の解釈の根拠を探りその妥当性を考える授業なので、丹念な出典調査、史実・事物についての的確な理解力が評価の対象となる。
教科書	1. 杜甫著、仇兆鰲注、『杜詩詳註』中華書局 2015
参考書	1. 森槐南、『杜詩講義』平凡社 2009 2. 杜甫著、蕭滌非主編社、『杜甫全集校注』人民文學出版 2014 3. 陳重喜、『明末清初杜 学研究』中 局 2013 4. 微、『清代杜 学文献考』 鳳出版社 2007
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 古典, 唐詩

授業科目名	中国文学史演習 (2B)
科目番号	02DS914
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	小松 建男
授業概要	杜甫の詩を諸注釈を参照しながら読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	杜詩を諸注釈を参考にしながら読み進め、解釈の多様性について考える
授業計画	第 1 回導入 第 2 回石壕吏 第 3 回夜夜憶舍弟 第 4 回夢李白 二首 第 5 回遣興 其一 第 6 回秦州雜詩 其一 第 7 回秋興八首 其一 第 8 回秋興八首 其二 第 9 回秋興八首 其三 第 10 回秋興八首 其四 第 11 回秋興八首 其五 第 12 回秋興八首 其六 第 13 回秋興八首 其七 第 14 回秋興八首 其八 第 15 回まとめ
成績評価方法	歴代の解釈の根拠を探りその妥当性を考える授業なので、丹念な出典調査、史実・事物についての的確な理解力が評価の対象となる。
教科書	1. 杜甫著、仇兆鰲注、『杜詩詳註』中華書局 2015
参考書	1. 甫著、蕭滌非主編社、『杜甫全集校注』人民文學出版 2014 2. 陳重喜、『明末清初杜 学研究』中 局 2013 3. 微、『清代杜 学文献考』 鳳出版社 2007
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学研究 (2A)
科目番号	02DS923
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	「謝僕射 (遊覧) 混」(嶺韻) を読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	嶺韻までを可能な限り正確に読む。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回題下注の検討 第 3 回「信矣」の二句の校訂 第 4 回「信矣」の二句の集注の検討 第 5 回「信矣」の二句の補注の検討 第 6 回「薄言」の二句の校訂 第 7 回「薄言」の二句の集注の検討 第 8 回「薄言」の二句の補注の検討 第 9 回「淒淒」の二句の校訂 第 10 回「淒淒」の二句の集注の検討 第 11 回「淒淒」の二句の補注の検討 第 12 回「時菊」の二句の校訂 第 13 回「時菊」の二句の集注の検討 第 14 回「時菊」の二句の補注の検討 第 15 回読解の再検討
成績評価方法	資料の厳密な読みに重点をおき評価する。
教科書	1. 上海古籍出版社, 『唐鈔文選集注彙存』
参考書	1. 鄭州大学出版社, 『新校訂六家注文選』
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学研究 (2B)
科目番号	02DS924
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	「謝僕射 (遊覧) 混」(景韻~)を読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	景韻以後を様々な角度から検討し、翻って全体を位置づける。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回「景」韻の校訂 第 3 回「景」韻の集注の検討 第 4 回「景」韻の補注の検討 第 5 回「静」韻の校訂 第 6 回「静」韻の検討 第 7 回「静」韻の補注の検討 第 8 回「秉」韻の校訂 第 9 回「秉」韻の集注の検討 第 10 回「秉」韻の補注の検討 第 11 回「郢」韻の校訂 第 12 回「郢」韻の集注の検討 第 13 回「郢」韻の補注の検討 第 14 回読解の再検討 第 15 回全体の位置づけ
成績評価方法	資料の柔軟な読みに重点をおき評価する。
教科書	1. 上海古籍出版社,『唐鈔文選集注彙存』
参考書	1. 勉誠出版, 東洋文庫善本叢書 12 『国宝 文選集注』石塚晴通・小助川貞次「解題」
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学演習 (2A)
科目番号	02DS933
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	『芸文類聚』巻 36「隠逸」に引かれる詩のうち、魏の阮瞻の作から読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	類書を通して時代の特徴を知る。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回魏阮瞻詩 第 3 回晋張華招隱詩 1 第 4 回晋張華招隱詩 2 第 5 回晋張載招隱詩 第 6 回晋張協詩 第 7 回晋左思招隱詩 1 第 8 回晋左思招隱詩 2 第 9 回晋陸機招隱詩 1 第 10 回晋陸機招隱詩 2 第 11 回晋閻丘冲招隱詩 第 12 回晋王康琚招隱詩 第 13 回晋辛曠贈皇甫謐詩 第 14 回宋謝靈運越嶺行溪詩 第 15 回梁武帝逸民詩
成績評価方法	読みの正確さによる。
教科書	1. 王紹楹の校本
参考書	1. 孫猛,『日本国見在書目録詳考』
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学演習 (2B)
科目番号	02DS934
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	『芸文類聚』巻 36「隠逸」に引かれる詩のうち、梁の劉孝標の作から読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	類書を通して詩題について考える。
授業計画	第 1 回梁劉孝標始居山堂室詩 第 2 回梁范雲答句曲先生詩 第 3 回梁吳筠詩 1 第 4 回梁吳筠詩 2 第 5 回梁吳筠詩 3 第 6 回梁任昉答劉居士詩 第 7 回梁任昉又答何徵君詩 第 8 回梁任昉又贈徐徵君詩 第 9 回梁庾肩吾贈周処士詩 第 10 回梁庾肩吾尋周処士弘讓詩 第 11 回梁庾肩吾賦得嵇叔夜詩 第 12 回周明帝贈韋居士詩 第 13 回周王褒贈周処士詩 第 14 回周庾信奉和趙王隱士詩 第 15 回まとめ
成績評価方法	疑問点を質す熱意による。
教科書	1. 王紹楹の校本
参考書	1. 毛遠明, 漢魏六朝碑刻異体字典
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学特講 (2A)
科目番号	02DS943
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	小松 建男, 稀代 麻也子
授業概要	各受講者が、先行研究との関連性を明確にしつつ自分の研究方法について簡潔にまとめ、今後の展望を提示する。提示に基づき、受講者全員で討論する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	先行研究を整理し、あらたな問題点を探る。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回古代文学の諸問題 第 3 回古代文学研究の論点整理 第 4 回六朝文学の諸問題 (阮籍) 第 5 回六朝文学研究の論点整理 (阮籍) 第 6 回六朝文学の諸問題 (陶淵明) 第 7 回六朝文学研究の論点整理 (陶淵明) 第 8 回唐代文学の諸問題 (李賀) 第 9 回唐代文学研究の論点整理 (李賀) 第 10 回唐代文学の諸問題 (劉禹錫) 第 11 回唐代文学研究の論点整理 (劉禹錫) 第 12 回宋代文学の諸問題 第 13 回宋代文学研究の論点整理 第 14 回アメリカにおける中国文学研究の動向 第 15 回まとめ
成績評価方法	発表者にとっては、文献選択の判断が的確であり、独自の視点で纏められていれば高評価とする。他の参加者にとっては、発展性のある質疑ができれば高評価とする。
教科書	発表者が資料を準備する。
参考書	1. 黄霖,『中国分体文学学史』山西教育出版社 2. 黄霖,『20 世 中国古代文学研究史』 方出版中心 3. 燕瑾・ 敏俐主 ,『20 世 中国文学研究 文 』社会科学文献出版社 4. 振 ・ 兆琦主 (古代文学),『20 世 中国学 系』百花洲文 出版社 5. 文新 主 , 文新 主 『中国学 档案大系』武 大学出版社
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国文学, 研究方法, 論文作成

授業科目名	中国文学特講 (2B)
科目番号	02DS944
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	小松 建男, 稀代 麻也子
授業概要	各受講者が、学界の最新の動向に対する見解を簡潔にまとめたうえで、自分の最新の研究について報告する。報告に基づき、受講者全員で討論する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	博士論文執筆にむけて研究計画を示し、全体で討議する。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回詩経学に関する執筆案の提示 第 3 回陶淵明に関する執筆案の提示 第 4 回阮籍に関する執筆案の提示 第 5 回李賀に関する執筆案の提示 第 6 回劉禹錫に関する執筆案の提示 第 7 回蘇東坡に関する執筆案の提示 第 8 回執筆案に対する教員による講評 第 9 回全体構成と進行状況 (詩経学) 第 10 回全体構成と進行状況 (阮籍) 第 11 回全体構成と進行状況 (陶淵明) 第 12 回全体構成と進行状況 (李賀) 第 13 回全体構成と進行状況 (劉禹錫) 第 14 回全体構成と進行状況 (蘇軾) 第 15 回まとめ
成績評価方法	発表者にとっては、実現可能な最高度の研究成果につながるように自分の研究を構築していく姿勢が顕著であれば高評価とする。他の参加者にとっては、お互いを高め合うような質疑ができれば高評価とする。
教科書	発表者が資料を準備する。
参考書	1. 黄霖,『中国分体文学学史』山西教育出版社 2. 黄霖,『20 世 中国古代文学研究史』 方出版中心 3. 燕瑾・ 敏俐主 ,『20 世 中国文学研究 文 』社会科学文献出版社 4. 振 ・ 兆琦主 (古代文学),『20 世 中国学 系』百花洲文 出版社 5. 文新 主 ,『中国学 档案大系』武 大学出版社
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国文学, 研究方法, 論文作成

授業科目名	一般言語学研究 (2A)
科目番号	02DT103
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	池田 潤, 臼山 利信, 金 仁和, 池田 晋
授業概要	指導教員による研究指導をふまえ、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行う。これにより、自分の研究テーマを一般言語学的視座に位置づけることを目指す。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	指導教員による研究指導を定期的に受けた上で、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行い、自分の研究テーマを一般言語学的視座に位置づける。 Based on the regular guidance from one's supervisor, the student makes a formal academic presentation in front of faculty members with diverse background so as to contextualize his research topic in general linguistic perspective.
授業計画	第 1 回月例会における研究発表 (1) 第 2 回月例会における研究発表 (2) 第 3 回月例会における研究発表 (3) 第 4 回月例会における研究発表 (4)
成績評価方法	口頭発表と質疑応答によって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	池田 潤 月 5 限、木 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp 臼山 利信 火:11:30 ~ 12:10 水:11:30 ~ 12:10 木:11:30 ~ 12:10 人 文 社 会 学 系 棟 B713 usuyama.toshinobu.gf at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/members/staffs/Usuyama 金 仁和 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp 池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B511
TF・TA	
キーワード	研究発表, 複数指導

授業科目名	一般言語学研究 (2B)
科目番号	02DT104
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	池田 潤, 臼山 利信, 金 仁和, 池田 晋
授業概要	指導教員による研究指導をふまえ、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行う。これにより、自分の研究テーマをさらに掘り下げることを目指す。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	指導教員による研究指導を定期的に受けた上で、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行、自分の研究テーマをさらに掘り下げる。 Based on the regular guidance from one's supervisor, the student makes a formal academic presentation in front of faculty members with diverse background so as to dig into his research topic more deeply.
授業計画	第 1 回月例会における研究発表 (1) 第 2 回月例会における研究発表 (2) 第 3 回月例会における研究発表 (3) 第 4 回月例会における研究発表 (4)
成績評価方法	研究発表と質疑応答によって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	池田 潤 月 5 限、木 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp 臼山 利信 火:11:30 ~ 12:10 水:11:30 ~ 12:10 木:11:30 ~ 12:10 人 文 社 会 学 系 棟 B713 usuyama.toshinobu.gf at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/members/staffs/Usuyama 金 仁和 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp 池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B511
TF・TA	
キーワード	研究発表, 複数指導

授業科目名	一般言語学演習 (2A)
科目番号	02DT113
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	池田 潤
授業概要	受講者の関心をふまえて一般言語学に関する論文を選び、演習形式で講読する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	受講者の関心をふまえて一般言語学に関する論文を選び、演習形式で講読する。 We select papers and/or books in general linguistics based on the interests of participants, and read them critically in the seminar-style setting.
授業計画	第 1 回 1) 顔合わせ 2) 購読する論文ないし専門書を選ぶ 第 2 回 第 1 回目に選んだ論文ないし専門書を講読する。(第 3 回目以降も同様)
成績評価方法	授業への貢献および最終レポートによって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	月 5 限、木 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	一般言語学, 原書講読

授業科目名	一般言語学演習 (2B)
科目番号	02DT114
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	池田 潤
授業概要	一般言語学に関する論文の購読を継続する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	一般言語学に関する論文の購読を継続する。 We continue reading the papers and/or books in general linguistics selected based on the interests of participants.
授業計画	第 1 回 1) 顔合わせ 2) 秋学期に読む論文ないし専門書を決定する。 第 2 回初回に決めた論文ないし専門書を購読する (第 3 回目以降も同様)
成績評価方法	授業への貢献および最終レポートによって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	月 5 限、木 4 限 (メールにて要予約) 人文社会学系棟 A517 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	一般言語学, 原書講読

授業科目名	一般言語学特講 A(2A)
科目番号	02DT123
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	臼山 利信
授業概要	多民族国家ロシアの言語状況・言語政策などについて、国内外の優れた研究成果に基づいて検討・考察する。内容は前年度と異なる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代ロシア語をめぐる言語学的諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理する。
授業計画	履修学生の問題意識に配慮した授業内容を心がけたい。 教材の文献は前年度と異なるものを使用する。 第 1 回ロシア語のしくみ (名詞述語およびその他の諸問題) その 1 第 2 回ロシア語のしくみ (名詞述語およびその他の諸問題) その 2 第 3 回ロシア語のしくみ (名詞述語およびその他の諸問題) その 3 第 4 回ロシア語のしくみ (名詞述語およびその他の諸問題) その 4 第 5 回ロシア語のしくみ (形容詞述語およびその他の諸問題) その 1 第 6 回ロシア語のしくみ (形容詞述語およびその他の諸問題) その 2 第 7 回ロシア語のしくみ (形容詞述語およびその他の諸問題) その 3 第 8 回ロシア語のしくみ (形容詞述語およびその他の諸問題) その 4 第 9 回ロシア語の形式 (名詞の文法形式・機能および形容詞の文法形式・機能ほか) その 1 第 10 回ロシア語の形式 (名詞の文法形式・機能および形容詞の文法形式・機能ほか) その 2 第 11 回ロシア語の形式 (名詞の文法形式・機能および形容詞の文法形式・機能ほか) その 3 第 12 回ロシア語の形式 (名詞の文法形式・機能および形容詞の文法形式・機能ほか) その 4 第 13 回ロシア語の形式 (動詞のアスペクトおよびその他の諸問題) その 1 第 14 回ロシア語の形式 (動詞のアスペクトおよびその他の諸問題) その 2 第 15 回ロシア語の形式 (動詞のアスペクトおよびその他の諸問題) その 3
成績評価方法	平常点とレポート等により総合的に評価する。
教科書	授業の際に教材として文献の複写などを配布する。
参考書	適宜指示する。
オフィスアワー	基本的に事前予約にて適宜対応する。
TF・TA	
キーワード	現代ロシア語, 言語形式, 言語機能, 格, 述語, 文法性, 名詞, 形容詞, 動詞

授業科目名	一般言語学特講 A(2B)
科目番号	02DT124
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	臼山 利信
授業概要	多民族国家ロシアの言語状況・言語政策などについて、国内外の優れた研究成果に基づいて検討・考察する。内容は前年度と異なる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	言語政策を巡る諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。
授業計画	履修学生の問題意識に配慮した授業内容を心がけたい。 主に多民族・多言語国家における公用語と民族語の関係を考察する。 教材の文献は前年度と異なるものを使用する。 第 1 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (中央アジア諸国等) 第 2 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (中央アジア諸国等) 第 3 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (中央アジア諸国等) 第 4 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (中央アジア諸国等) 第 5 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (中央アジア諸国等) 第 6 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (ベラルーシ・ウクライナ・モルドヴァ等) 第 7 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (ベラルーシ・ウクライナ・モルドヴァ等) 第 8 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (ベラルーシ・ウクライナ・モルドヴァ等) 第 9 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (バルト諸国等) 第 10 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (バルト諸国等) 第 11 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (バルト諸国等) 第 12 回ロシア連邦の言語状況と言語政策 第 13 回ロシア連邦の言語状況と言語政策 第 14 回ロシア連邦の言語状況と言語政策 第 15 回ロシア連邦の言語状況と言語政策
成績評価方法	平常点とレポート等により総合的に評価する。
教科書	授業の際に教材として文献の複写などを配布する。
参考書	適宜指示する。
オフィスアワー	基本的に事前予約にて適宜対応する。
TF・TA	
キーワード	言語状況, 言語政策, ロシア語圏諸国, 国家語, ロシア語, 言語法, 言語教育

授業科目名	一般言語学特講 B(2A)
科目番号	02DT133
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	金 仁和
授業概要	韓・日両言語における文構造を対照する。意味が多重に解釈できる文の構造を中心とする。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	韓・日両言語における文構造を対照する。
授業計画	第 1 回 1. 日・韓の構文の特徴:必要項による文の種類 (1) 第 2 回 2. 日・韓の構文の特徴:必要項による文の種類 (2) 第 3 回 3. 構文による文型:単文、複文、重文、補文 (1) 第 4 回 4. 構文による文型:単文、複文、重文、補文 (2) 第 5 回 5. 構文の変形 (1) 第 6 回 6. 構文の変形 (2) 第 7 回 7. 語順と成分表示 (1) 第 8 回 8. 語順と成分表示 (2) 第 9 回 9. 省略の許容度 (1) 第 10 回 10. 省略の許容度 (2)
成績評価方法	出席 (30%)・発表 (30%)・レポート (40%)
教科書	教材は授業時の配布資料。
参考書	参考文献は配布資料を参照。
オフィスアワー	木 4・5 限、要アポ。 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	構文の韓・日対照

授業科目名	一般言語学特講 B(2B)
科目番号	02DT134
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	金 仁和
授業概要	韓・日両言語における文構造を対照する。倒置・省略文の構造を中心とする。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	倒置・省略文の構造を中心として韓・日対照を行う。
授業計画	第 1 回 1. 倒置文における日・韓対照 1) 倒置の目的・効果:倒置前文と倒置後文との意味比較 第 2 回 2) 文脈による倒置文の前部と後部と意味ウェイトの変化 第 3 回 3) 倒置から見られる言語運用と文化との関わり 第 4 回 2. 省略文における日・韓対照 1) 省略目的・効果:省略前文と省略後文との意味比較 第 5 回 2) 省略の範囲 第 6 回 3) 省略部の再生可能性、慣用的省略 第 7 回 4) 省略から見られる言語運用と文化との関わり
成績評価方法	出席 (30%)・発表 (30%)・レポート (40%)
教科書	教材は授業時の配布資料。
参考書	参考文献は配布資料を参照。
オフィスアワー	木 4・5 限、要アポ。 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	倒置・省略

授業科目名	中国語学演習 (2A)
科目番号	02DT173
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	池田 晋
授業概要	中国語の情報構造をテーマとして、関連する文献を読み、基礎的な概念について理解を深めたうえで、問題点について受講者全員で議論をおこなう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	中国語の情報構造の基礎的な概念と最新の研究動向について理解を深めた上で、このテーマに関して自ら考え問題点を発掘する力を身に付けることを目標とする。
授業計画	徐烈炯・劉丹青『話題的結構と功能』を演習形式で読み進めていく。受講者は必ず予習をおこないテキストの要旨を理解した上で、議論の材料となる疑問点・問題点を準備してくる。 第 1 回イントロダクション 第 2 回第 1 章を読む 第 3 回引き続き第 1 章を読む 第 4 回第 2 章を読む 第 5 回引き続き第 2 章を読む 第 6 回第 3 章を読む 第 7 回引き続き第 3 章を読む 第 8 回第 4 章を読む 第 9 回引き続き第 4 章を読む 第 10 回第 5 章を読む 第 11 回引き続き第 5 章を読む 第 12 回第 6 章を読む 第 13 回引き続き第 6 章を読む 第 14 回第 7 章を読む 第 15 回引き続き第 7 章を読む
成績評価方法	出席、授業への貢献度、学期末レポートにより総合的に評価する。
教科書	1. 徐烈炯・劉丹青, 話題的結構と功能
参考書	
オフィスアワー	事前予約により随時 人文社会学系棟 B510
TF・TA	
キーワード	中国語, 漢語方言, 情報構造, 主題, 焦点, 構文

授業科目名	中国語学演習 (2B)
科目番号	02DT174
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	池田 晋
授業概要	中国語の情報構造をテーマとして、関連する文献を読み、最新の研究動向に対する理解を深めたうえで、問題点について受講者全員で議論をおこなう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	中国語の情報構造に関する具体的研究を通して最新の研究動向について理解を深め、このテーマに関してより深く考え問題点を発掘する力を身に付けることを目標とする。
授業計画	劉丹青・徐烈炯『話題与焦点新論』所収論文を演習形式で読み進めていく。受講者は必ず予習をおこないテキストの要旨を理解した上で、議論の材料となる疑問点・問題点を準備してくること。 第 1 回イントロダクション 第 2 回『話題的表現形式与語用関係』を読む 第 3 回引き続き『話題的表現形式与語用関係』を読む 第 4 回『漢語是不是話語概念結構化語言』を読む 第 5 回引き続き『漢語是不是話語概念結構化語言』を読む 第 6 回『漢語句子の主語和話題』を読む 第 7 回引き続き『漢語句子の主語和話題』を読む 第 8 回『試論 “ 周遍性 ” 成分的状語性』を読む 第 9 回引き続き『試論 “ 周遍性 ” 成分的状語性』を読む 第 10 回『漢語話題的語法地位和語法化程度-基於真實自然口語的共時和歷時考量』を読む 第 11 回引き続き『漢語話題的語法地位和語法化程度-基於真實自然口語的共時和歷時考量』を読む 第 12 回『話題句的合格条件』を読む 第 13 回引き続き『話題句的合格条件』を読む 第 14 回『廣東話話題化的处理動機』を読む 第 15 回引き続き『廣東話話題化的处理動機』を読む
成績評価方法	出席、授業への貢献度、学期末レポートにより総合的に評価する
教科書	1. 劉丹青・徐烈炯, 話題与焦点新論
参考書	
オフィスアワー	事前予約により随時 人文社会学系棟 B510
TF・TA	
キーワード	中国語, 漢語方言, 情報構想, 主題, 焦点

授業科目名	応用言語学基礎論 A
科目番号	02DT201
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 5,6
担当教員	一二三 朋子, 石田 プリシラ アン, 澤田 浩子, 杉本 武, 竹沢 幸一, 沼田 善子, 松崎 寛, 宮本 エジソン 正
授業概要	応用言語学において基盤となるものの見方や考え方などを、講義を通して深めていく。
備考	
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	学術的な研究能力を高めるとともに、アカデミックキャリア形成のための基本的な情報を提供する。
授業計画	1 学期の水曜 5・6 限に応用言語学基礎論の授業を行う。
成績評価方法	授業への取り組み状況から総合して評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	一二三 朋子 hifumi.tomoko.gf at u.tsukuba.ac.jp 石田 プリシラ アン 火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A606 029-853-4138 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp 澤 田 浩 子 sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/ 杉本 武 メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 竹沢 幸一 月 3 限またはアポイントメント takezawa.koichi.gn at u.tsukuba.ac.jp 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 松 崎 寛 matsuzaki.hiroshi.fp at un.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/ 宮本 エジソン 正

TF・TA	
キーワード	応用言語学, 研究方法

授業科目名	応用言語学基礎論 B
科目番号	02DT202
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 随時
担当教員	一二三 朋子, 石田 プリシラ アン, 澤田 浩子, 杉本 武, 竹沢 幸一, 沼田 善子, 松崎 寛, 宮本 エジソン 正
授業概要	応用言語学において基盤となるものの見方や考え方などを、議論を通して深めていく。
備考	
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	学術的な研究能力を高めるとともに、アカデミックキャリア形成のための基本的な情報を提供する。
授業計画	毎月開催される応用言語学月例会に参加する。
成績評価方法	月例会への取り組みの状況と出席率から総合して評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	一二三 朋子 hifumi.tomoko.gf at u.tsukuba.ac.jp 石田 プリシラ アン 火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A606 029-853-4138 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp 澤 田 浩 子 sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/ 杉本 武 メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 竹沢 幸一 月 3 限またはアポイントメント takezawa.koichi.gn at u.tsukuba.ac.jp 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 松 崎 寛 matsuzaki.hiroshi.fp at un.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/ 宮本 エジソン 正

TF・TA	
キーワード	応用言語学基礎論, 研究方法

授業科目名	応用言語学研究 (2A)
科目番号	02DT205
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	宮本 エジソン 正
授業概要	This is a class in experimental psycholinguistics. Students are required to design and prepare an experiment measuring reaction times. 授業は 2G301 で行う
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Students will propose a psycholinguistics experiment to be conducted in the Fall. Classroom:2G301
授業計画	Days 1 - 3: how to set up experiments Days 4 - 8: read and discuss recent papers in language comprehension Days 9 - 15: design and prepare a new experiment
成績評価方法	Evaluation will be based on participation during classes and the experimental project.
教科書	
参考書	Pointers to relevant papers and book chapters will be provided along the semester.
オフィスアワー	By appointment http://alum.mit.edu/www/miyamoto
TF・TA	
キーワード	心理言語学, 実験, 反応時間, psycholinguistics, experiment, reaction_times

授業科目名	応用言語学研究 (2B)
科目番号	02DT206
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 AB 火 3; 秋 C 応談
担当教員	宮本 エジソン 正
授業概要	Students will collect data for the psycholinguistics experiment prepared in the first semester, analyze and discuss the results, and propose follow-up experiments.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Students will collect data for the psycholinguistics experiment prepared in the first semester. After analyzing the data, they may redesign the experiment and propose further tests. Classroom: 2G301
授業計画	Day 1: initial preparations Days 2 - 6: collect data Days 7 - 10: tutorials on linear mixed models Days 11 - 14: analyze the data Day 15: consider future experiments
成績評価方法	Evaluation will be based on participation during classes and the experimental project.
教科書	
参考書	Pointers to papers and book chapters will be provided along the semester.
オフィスアワー	By appointment. http://alum.mit.edu/www/miyamoto/
TF・TA	
キーワード	心理言語学, 実験, 反応時間, 統計 (線形混合モデル), psycholinguistics, experiment, reaction_times, statistics, mixed-effect_models

授業科目名	応用言語学論文演習 (2A)
科目番号	02DT225
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	石田 プリシラ アン
授業概要	This seminar will address the role of formulaic sequences in language acquisition and use. The aim is for students to gain an understanding of current issues and methodologies in this area, as well as an understanding of how research in this area has developed over time.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。 日本語の論文を扱う場合は発表とディスカッションの使用言語は日本語とする。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	The principal aim of this course is for students to gain an understanding of trends in research on formulaic sequences in language acquisition and use. There will be an emphasis on exploring and evaluating a range of methodological directions. A secondary aim of this course is for students to improve their ability to discuss linguistics research, give oral presentations, and write papers in English. Keywords: formulaic sequences, language acquisition and processing, productive and receptive knowledge, longitudinal study, eye-movement tracking, self-paced reading, think-aloud protocol This course is strongly recommended as a prerequisite to 応用言語学論文演習 (2B).
授業計画	Class format will consist of oral presentations and discussion of chapters from the course text (see below). Below is a preliminary list of chapters to be covered this term. Final selection will be made by course participants (Week 2). Participants will also have the option of selecting and presenting other readings (articles or book chapters, either English or Japanese) relevant to the content and aims of this course. 第 1 回 Course introduction/Reading list 第 2 回 Oral presentation/discussion: Formulaic sequences in action (Schmitt and Carter 2004)/Presentation schedule for Weeks 3-10 第 3 回 Oral presentation: Measurement of formulaic sequences (Read and Nation 2004) 第 4 回 Discussion: Read and Nation (2004) 第 5 回 Oral presentation: Formulaic performance in conventionalised varieties of speech (Kuiper 2004) 第 6 回 Discussion: Kuiper (2004)/Presentation schedule for Weeks 11-15 第 7 回 Oral presentation: Knowledge and acquisition of formulaic sequences: A longitudinal study (Schmitt, Dornyei, Adolphs, and Durow 2004) 第 8 回 Discussion: Schmitt, Dornyei, Adolphs, and Durow (2004) 第 9 回 Oral presentation: Individual differences and their effects on formulaic sequence acquisition (Dornyei, Durow, and Zahran 2004) 第 10 回 Discussion: Dornyei, Durow, and Zahran (2004)/Final paper guidelines 第 11 回 Oral presentation/discussion: The eyes have it: An eye-movement study into the processing of formulaic sequences (Underwood, Schmitt, and Galpin 2004) 第 12 回 Oral presentation/discussion: Exploring the processing of formulaic se-

	第 13 回 Oral presentation/discussion: Comparing knowledge of formulaic sequences across L1, L2, L3, and L4 (Spottl and McCarthy 2004) 第 14 回 Oral presentation/discussion: The effect of typographic salience on the look up and comprehension of unknown formulaic sequences (Bishop 2004)/Course evaluation 第 15 回 Oral presentation/discussion: Facilitating the acquisition of formulaic sequences: An exploratory study in an EAP context (Jones and Haywood 2004) Note: The schedule above is subject to change, depending on the number of participants.
成績評価方法	Students will be evaluated on the basis of class participation (30%), oral presentations (30%), and a final paper (40%).
教科書	1. Schmitt, Norbert (ed.),Formulaic Sequences: Acquisition, processing and use (John Benjamins Publishing Company, 2004). A description of the text is available on the publisher's website. https://benjamins.com/#catalog/books/llt.9/main Samples of some of the text's chapters can be viewed on Google Books. https://books.google.co.jp/books/about/Formulaic_Sequences.html?id=VFtUs3HYsB4C&redir
参考書	1. Heredia, Roberto R. and Anna B. Cieslicka (eds.),Bilingual Figurative Language Processing (Cambridge University Press, 2015). 2. Kuiper, Koenraad,Formulaic Genres (Palgrave Macmillan, 2009). 3. Nattinger, James and Jeanette DeCarrico,Lexical Phrases and Language Teaching (Oxford University Press, 1992). 4. Publication Manual of the American Psychological Association, 6th ed. (American Psychological Association, 2009). 5. Matthews, P.H.,Oxford Concise Dictionary of Linguistics, 2nd ed. (Oxford University Press, 2007).
オフィスアワー	火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A606 029-853-4138 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	応用言語学論文演習 (2B)
科目番号	02DT226
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	石田 プリシラ アン
授業概要	This seminar will address the role of formulaic sequences in language acquisition and use. Students will be required to conduct an independent research project on a course-related topic of their choice.
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 英語で授業。 参加条件として、「応用言語学論文演習 (2A)」を受講していることが望ましい。研究プロジェクトの使用言語は英語または日本語とする。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	The principal aim of this course is for students to gain a working knowledge of methodologies used to analyze the acquisition, processing, and use of formulaic sequences. A secondary aim is for students to improve their ability to discuss linguistics research, give oral presentations, and write papers in English. Keywords: formulaic sequences, language acquisition and processing, productive and receptive knowledge It is strongly recommended that students who want to take this course take 応用言語学論文演習 (2A) first.
授業計画	Class format will include oral presentations, discussion, and an independent research project. At the beginning of the term, students will select a research topic. During Weeks 2-8, they will present a review of past studies related to their project, as well as their own research proposal and/or preliminary results. During Weeks 9-15, students will present the results of their projects and write them up in a short paper. Note: Students may choose either English or Japanese as the language of use for their research projects (oral presentations/discussion and final paper). 第 1 回 Course introduction/Independent project assignment/ Presentation schedule for Weeks 2-8 第 2 回 Independent research project: Literature review/preliminary results (1) 第 3 回 Independent research project: Literature review/preliminary results (2) 第 4 回 Independent research project: Literature review/preliminary results (3) 第 5 回 Independent research project: Literature review/preliminary results (4) 第 6 回 Independent research project: Literature review/preliminary results (5)/Presentation schedule for Weeks 9-15 第 7 回 Independent research project: Literature review/preliminary results (6) 第 8 回 Independent research project: Literature review/preliminary results (7) 第 9 回 Independent research project: Final presentation (1) 第 10 回 Independent research project: Final presentation (2) 第 11 回 Independent research project: Final presentation (3) 第 12 回 Independent research project: Final presentation (4) 第 13 回 Independent research project: Final presentation (5)

	第 14 回 Independent research project: Final presentation (6)/Course evaluation 第 15 回 Independent research project: Final presentation (7) Note: 1) The general topic for the independent project is "Formulaic sequences in language acquisition, processing, and use." Students are free to decide how to limit this topic, based on their own research interests. 2) Articles (if any) must be distributed to all participants no later than one week in advance. 3) The schedule above is subject to change, depending on the number of participants.
成績評価方法	Students will be evaluated on the basis of class participation (30%), oral presentations (30%), and a final paper (40%).
教科書	There is no textbook for this course. Information regarding recommended readings will be provided in accordance with student needs over the course of the semester.
参考書	1. Liu, Dilin, Idioms: Description, Comprehension, Acquisition, and Pedagogy (Routledge, 2008). 2. Nation, I.S.P. and Stuart Webb, Researching and Analyzing Vocabulary (Heinle/Cengage Learning, 2011). See especially Chapter 10 "Researching Multiword Units." 3. Wray, Alison, Formulaic Language: Pushing the Boundaries (Oxford University Press, 2008). 4. Publication Manual of the American Psychological Association, 6th ed. (American Psychological Association, 2009). 5. Matthews, P.H., Oxford Concise Dictionary of Linguistics, 2nd ed. (Oxford University Press, 2007). See also the reference list for 02DT225 応用言語学論文演習 (2A).
オフィスアワー	火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A606 029-853-4138 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語教育学研究 (2A)
科目番号	02DT235
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育学分野の論文講読を通じ、クリティカルに物事を捉える基礎的な力を身につける。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語教育学分野の論文講読を通じ、クリティカルに物事を捉える基礎的な力を身につける。
授業計画	「日本語教育方法の改善に役立つ実験・調査を行っている論文 (日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。 第 1 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 2 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 3 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 4 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 5 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 6 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 7 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 8 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 9 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 10 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 11 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 12 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 13 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 14 回日本語教育学分野の論文講読と討議 第 15 回日本語教育学分野の論文講読と討議
成績評価方法	出席、発表、討論参加、他者評価内容、期末課題等による総合判定。
教科書	特になし
参考書	授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー	随時。要アポイントメント
TF・TA	
キーワード	日本語教育学、日本語教育方法論、クリティカルシンキング

授業科目名	日本語教育学研究 (2B)
科目番号	02DT236
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育方法の改善に役立つ論文を取り上げ、方法論上の問題点や、推論の妥当性を検討する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語教育学分野の論文を履修者全員で深く読みとき、物事をクリティカルに捉える基礎的な力を身につける。
授業計画	「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文 (日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。 第 1 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 2 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 3 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 4 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 5 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 6 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 7 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 8 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 9 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 10 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 11 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 12 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 13 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 14 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 15 回日本語教育学分野の論文講読および討議
成績評価方法	出席、発表、討論参加、他者評価内容、期末課題等による総合判定。
教科書	特になし
参考書	授業内で適宜指示する
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語教育学、日本語教育方法論、クリティカルシンキング

授業科目名	日本語教育学演習 (2A)
科目番号	02DT245
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 3
担当教員	一二三 朋子
授業概要	統計を使った日本語教育の論文を精読し、論文内の統計用語の知識を習得する。
備考	演習形式。 2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	日本語教育における統計の理解と、自身の研究に応用できるようにする。
授業計画	日本語教育における統計の使い方についての知見を深める。そのためには、統計を使った日本語教育関係の論文について調べておくことが望ましい。 第 1 回オリエンテーション 参考文献紹介 第 2 回統計に関する論文講読 1 第 3 回統計に関する論文講読 2 第 4 回統計に関する論文講読 3 第 5 回統計の基礎 第 6 回有意差とは 第 7 回基本統計量 第 8 回 t 検定 第 9 回分散分析 1 第 10 回分散分析 2 第 11 回分散分析 3 第 12 回実験計画法 1 第 13 回実験計画法 2 第 14 回統計の応用 第 15 回総括
成績評価方法	出席率・提出物・参加度などから評価。
教科書	特に指定しない。
参考書	授業時に適宜紹介する。
オフィスアワー	月 4・随時。要アポ
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語教育学演習 (2B)
科目番号	02DT246
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 AB 金 3; 秋 AB 集中
担当教員	一二三 朋子
授業概要	春学期に学んだ統計を実践的に身につけるために、実際に調査を行い、統計ソフトを使った分析の実習を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	統計の使い方について実習を行い、統計の実践的利用の仕方を習得する。
授業計画	第 1 回相関係数 第 2 回因子分析 1 第 3 回因子分析 2 第 4 回因子分析 3 第 5 回実習計画 第 6 回質問紙作成 1 第 7 回質問紙作成 2 第 8 回回帰分析 1 第 9 回回帰分析 2 第 10 回 SPSS 実習 1 第 11 回 SPSS 実習 2 第 12 回 SPSS 実習 3 第 13 回論文の記載の仕方 1 第 14 回論文の記載の仕方 2 第 15 回総括
成績評価方法	出席率・提出物・参加度などから総合的に評価。
教科書	特に指定しない。
参考書	授業時に適宜紹介する。
オフィスアワー	木 3 要アポ。
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語構造論研究 (2A)
科目番号	02DT255
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 2
担当教員	杉本 武
授業概要	記述的研究の立場から現代日本語の動詞の構文の分析を行いながら、記述的研究のあるべき姿を考える。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	記述的研究の意義を見直し、その方法論を身につける。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回日本語の格 第 3 回日本語のヴォイス 第 4 回日本語のアスペクト 第 5 回動詞と格 (一項動詞) 第 6 回動詞と格 (二項動詞) 第 7 回動詞と格 (三項動詞) 第 8 回動詞とヴォイス (受動) 第 9 回動詞とヴォイス (使役) 第 10 回動詞とヴォイス (自他) 第 11 回動詞とアスペクト (動作動詞) 第 12 回動詞とアスペクト (変化動詞) 第 13 回動詞とアスペクト (語的な現象) 第 14 回動詞とその他の文法カテゴリー 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への参加度とレポートを総合して評価する。
教科書	授業時にプリントを配布する。
参考書	以下の他、授業時に適宜指示する。 1. 奥津敬一郎・沼田善子・杉本武 (1986), 『いわゆる日本語助詞の研究』, 凡人社 2. 仁田義雄・村木新次郎・柴谷方良・矢澤真人 (2000), 『日本語の文法 1 文の骨格』, 岩波書店 3. 影山太郎 (1996), 『動詞意味論』, くろしお出版
オフィスアワー	メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
TF・TA	
キーワード	日本語文法論, 記述的研究, 動詞, 格, ヴォイス, アスペクト

授業科目名	日本語構造論研究 (2B)
科目番号	02DT256
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 2
担当教員	杉本 武
授業概要	コーパスを用いた言語研究の手法を学び、現代日本語の文法の分析を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	コーパスの適正な利用法について理解を深める。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回コーパス概説 第 3 回コーパスの利用 (1) 用例収集 第 4 回コーパスの利用 (2) コロケーション 第 5 回コーパスの利用 (3) 形態素情報 第 6 回コーパス言語学の方法 第 7 回テーマに基づく発表と討論 (1) コーパスと内省 第 8 回テーマに基づく発表と討論 (2) コーパスの用例の性格とその評価 第 9 回テーマに基づく発表と討論 (3) コーパスにおける量的側面の解釈 第 10 回テーマに基づく発表と討論 (4) コーパスにおける特殊例の解釈 第 11 回テーマに基づく発表と討論 (5) コーパスにおける非存在例の解釈 第 12 回テーマに基づく発表と討論 (6) コーパスとジャンル 第 13 回テーマに基づく発表と討論 (7) コーパスとゆれ、言語変化 第 14 回テーマに基づく発表と討論 (8) コーパスの仮説主導的利用と発見的利用 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への参加度と研究発表を総合して評価する。
教科書	授業時にプリントを配布する。
参考書	以下の他、授業時に適宜指示する。 1. 石川慎一郎 (2012), 『ベーシック コーパス言語学』、ひつじ書房 2. 石井正彦・杉本武・服部匡・小原京子・田野村忠温 (2014), 『講座日本語コーパス 6 コーパスと日本語学』、朝倉書店
オフィスアワー	メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B414 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
TF・TA	
キーワード	コーパス言語学, 日本語文法論, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論演習 (2A)
科目番号	02DT265
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	沼田 善子
授業概要	現代日本文法の諸現象のうち、「とりたて」に関する現象を取り上げて考察する。ここでの考察は、他言語との比較対照もできる限り交えながら、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深め、これを踏まえた受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学ぶ。
授業計画	事態の程度を見積もる種々の表現 (例えば「さえ」「すら」「くらい」「ばかり」等のとりたて詞、「せいぜい」「ただか」「相当」「全然」等の副詞等) の諸特徴について、談話全体に与える表現効果をも含めて考える。初めにこれらの表現の諸特徴について概観する講義の後、毎回、受講者各自がとりあげた個々の表現についての発表とそれに対する討論を通し、考察を進める。特に今年度はとりたて詞に焦点をあてて分析を進める。 第 1 回イントロダクション (本授業で行う研究の言語学的意義と社会的要請の関係、研究の発展可能性等についての講義) 第 2 回とりたて詞について概観 (講義) 第 3 回とりたて詞における事態の程度の見積もりと談話解釈への影響について (講義) 第 4 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 5 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 6 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 7 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 8 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 9 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 10 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 11 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 12 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 13 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 14 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論 第 15 回受講者の設定したテーマによる発表及びそれに対する討論
成績評価方法	授業時の発表と討論への参加のあり方を総合的に判断して、評価する。
教科書	特に無し。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	現代語, 文法, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論演習 (2B)
科目番号	02DT266
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	沼田 善子
授業概要	現代日本語における「とりたて」に関わる種々の表現を取り上げ、受講者の発表とそれに対する討論を通し、主に文法の観点から考察する。ここでの考察は、他言語との比較対照もできる限り交えながら、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深め、これを踏まえた受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学ぶ。
授業計画	「日本語構造論演習 1A」での考察に引き続き、とりたて詞による事態の程度を見積もる種々の表現の諸特徴について、談話全体に与える表現効果との関連から、受講者の発表とそれに対する討論を通し、考察を進める。 第 1 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 2 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 3 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 4 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 5 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 6 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 7 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 8 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 9 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 10 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 11 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 12 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 13 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 14 回受講者の設定したテーマとそれに対する討論 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業時の発表と討論への参加のあり方を総合的に判断して、評価する。
教科書	特に無し。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	現代語, 文法, 記述的研究

授業科目名	対照言語学研究 (2A)
科目番号	02DT275
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	澤田 浩子
授業概要	対照言語学的視点から、文法・談話に関する現象を取り上げ、記述・分析を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	談話資料 (話し言葉・書き言葉) を対象に、言語行動 (主に単調性回避に関する諸現象) をテーマに各自が分析課題を設定し、日本語教育・国語教育への貢献を視野に入れた実用的な研究成果のアウトプットをめざして、調査・分析を行う。
授業計画	受講生でグループを作り、ワークショップ形式で授業を行う。 分析対象の設定や分析の手法など、各自の関心に応じて柔軟に設定できるようにするが、 自らアイデアを出して、試行錯誤することが求められる。 テーマの詳細や授業の進め方については、初回の授業時に説明をするので欠席をしないこと。 第 1 回 オリエンテーション (教員からワークショップの趣旨の説明、授業の進め方の相談) 第 2~5 回 各グループでの調査分析 第 6~10 回 途中経過および暫時的成果の報告と共有 第 11~15 回 各グループでの調査の継続
成績評価方法	最終的な成果物 (研究発表もしくは研究論文) およびワークショップへの貢献度
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	対照言語学研究 (2B)
科目番号	02DT276
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	澤田 浩子
授業概要	文法・談話の両領域に関する現象の記述をもとに、言語行動、発話行為について考察を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	談話資料 (話し言葉・書き言葉) を対象に、言語行動 (主に単調性回避に関する諸現象) をテーマに各自が分析課題を設定し、日本語教育・国語教育への貢献を視野に入れた実用的な研究成果にまとめる。
授業計画	受講生でグループを作りワークショップ形式で授業を行う。 内容は春学期科目 (02DT275 対照言語学研究 (2A)) のワークショップを継続するが、新規の受講も可能である。 テーマの詳細や授業の進め方については、初回の授業時に説明をする。 第 1 回 オリエンテーション (教員からワークショップの趣旨の説明、授業の進め方の相談) 第 2~5 回 各自 (あるいは各グループ) での調査分析 第 6~10 回 途中経過および暫時的成果の報告と共有 第 11~15 回 各自 (あるいは各グループ) での調査の継続
成績評価方法	最終的な成果物 (研究発表もしくは研究論文) およびワークショップへの貢献度
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	対照言語学演習 (2A)
科目番号	02DT285
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	竹沢 幸一
授業概要	形態論・統語論の言語間比較・対照のための方法論を学ぶ。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	統語論理論とそれに基づくデータ分析法を身につける。
授業計画	日本語と他言語との比較統語論を扱った論文の発表と討論。 第 1 回イントロ 第 2 回発表と質疑 1 第 3 回討論 1 第 4 回発表と質疑 2 第 5 回討論 2 第 6 回発表と質疑 3 第 7 回討論 3 第 8 回発表と質疑 4 第 9 回討論 4 第 10 回発表と質疑 5 第 11 回討論 5 第 12 回発表と質疑 6 第 13 回討論 6 第 14 回発表と質疑 7 第 15 回討論 7
成績評価方法	授業への参加度と期末レポートによる
教科書	
参考書	
オフィスアワー	月 3 限またはアポイントメント takezawa.koichi.gn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	比較統語論, 日本語統語論, 構造と意味のインターフェイス, 生成文法理論

授業科目名	対照言語学演習 (2B)
科目番号	02DT286
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	竹沢 幸一
授業概要	日本語を中心に言語間の比較・対照を行いながら、人間言語の文法の個別性と普遍性について記述的及び理論的に考察を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	比較統語論に関する新旧の文献の発表と討論を行う。
授業計画	毎回担当者を決め、発表と論議を中心に授業を進める。 第 1 回イントロ 第 2 回論文発表と内容確認のための質疑 1 第 3 回討論 1 第 4 回論文発表と内容確認のための質疑 2 第 5 回討論 2 第 6 回論文発表と内容確認のための質疑 3 第 7 回討論 3 第 8 回論文発表と内容確認のための質疑 4 第 9 回討論 4 第 10 回論文発表と内容確認のための質疑 5 第 11 回討論 5 第 12 回論文発表と内容確認のための質疑 6 第 13 回討論 6 第 14 回予備日 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への貢献度 (50%) と期末レポート (50%)
教科書	事業開始時に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	比較統語論, 日本語統語論, 生成文法理論, 意味と統語のインターフェイス

授業科目名	日本語音韻研究 (2A)
科目番号	02DT403
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	那須 昭夫
授業概要	音声資料の分析と記述を実践し, 近年の日本語に生じつつある音調変異の実態と特性について考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	音声資料の分析ならびに音韻論的考察を行ううえで必要とされる技術・知識・検討能力を身につけることを目指す。
授業計画	臨地調査を通じて得られた音声資料の記述と分析を行う。聴覚判定の方法,F0 曲線の観察と測定, 音調の記述, データの整理と分析などの作業を実践し, 近年の日本語に生じつつある音調変異の実態について検討する。 第 1 回ガイダンス 第 2 回録音資料の聴取と記述の方法に関する解説 第 3 回聴覚判定および音調記述の練習 第 4 回聴取・記述の実践 (1) 第 5 回記述内容の検討 (1) 第 6 回聴取・記述の実践 (2) 第 7 回記述内容の検討 (2) 第 8 回聴取・記述の実践 (3) 第 9 回記述内容の検討 (3) 第 10 回聴取・記述の実践 (4) 第 11 回記述内容の検討 (4) 第 12 回 F0 曲線の観察と分析方法に関する解説 第 13 回 F0 曲線の観察と分析 (1) 第 14 回 F0 曲線の観察と分析 (2) 第 15 回 F0 曲線の観察と分析 (3)
成績評価方法	出欠状況, 発表の内容, 討議への貢献, 提出物の内容等の観点から評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語音韻研究 (2B)
科目番号	02DT404
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	那須 昭夫
授業概要	音声資料に基づいて構築したデータを分析し、音調変異現象の諸特性について多角的な検討と考察を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	アクセント資料を実際に分析する活動を通じて、新たな音韻論的知見を導くための考察力を身につける。
授業計画	音声資料の記述を通じて得られたデータを受講者各自が実際に分析し、発表と討議を行うことで、音調変異現象の特性について多角的な検討・考察を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回分析観点の検討と解説 (1) 第 3 回分析観点の検討と解説 (2) 第 4 回分析観点の検討と解説 (3) 第 5 回分析・報告 (1) 第 6 回分析・報告 (2) 第 7 回分析・報告 (3) 第 8 回分析・報告 (4) 第 9 回中間考察 (報告のとりまとめと検討) 第 10 回分析・報告 (5) 第 11 回分析・報告 (6) 第 12 回分析・報告 (7) 第 13 回分析・報告 (8) 第 14 回最終考察 (報告のとりまとめと検討) 第 15 回まとめ
成績評価方法	出欠状況, 発表の内容, 討議への貢献, 提出物の内容等の観点から評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語文法研究 (2A)
科目番号	02DT413
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	日本語の意味論・語用論的研究の方法論について、具体的なケースワークの中で検討する。受講者の希望にもよるが、導入としては本多啓 2016 と関連論文を読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代共通語を中心とした日本語意味論・語用論研究の現況を把握し、各自の目的に即した情報、議論の技術を身につける。
授業計画	現代共通語を中心とした日本語意味論・語用論について、近年の論考を検討する。受講者のオリジナルな内容についても検討の対象とする。 第 1 回受講者の学的バックグラウンドの情報交換、前提のすりあわせ、研究倫理についての確認他。 第 2 回本多啓 2016 の紹介・検討、議論。 第 3 回本多啓 2016 に関する諸研究についての議論。 第 4 回有田節子 2007(特に 4 章、7 章) の紹介・検討、議論。 第 5 回有田節子 2007 に関連する諸研究についての議論。 第 6 回三原 2015(特に 4 章、6 章) の紹介・検討、議論。 第 7 回三原 2015 に関連する諸研究についての議論。 第 8 回熊本千明 2014 の紹介・検討、議論。 第 9 回熊本千明 2014 に関する諸研究についての議論。 第 10 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 11 回オリジナルな内容についての議論 (2) 第 12 回オリジナルな内容についての議論 (3) 第 13 回オリジナルな内容についての議論 (4) 第 14 回オリジナルな内容についての議論 (5) 第 15 回第 2~14 回の内容・議論についての補足、まとめ。
成績評価方法	議論への貢献を中心に評価する。希望により提出物の内容も評価に加える。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語文法, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語文法研究 (2B)
科目番号	02DT414
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	古典日本語を含む、日本語文法論の検討。受講者の希望にもよるが、導入としては金水 2015 とその周辺論文を読む予定。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	意味論・語用論を中心とした日本語文法論についての、適切な情報収集能力、議論の技術、プレゼンテーションの能力を獲得する。
授業計画	日本語意味論・語用論を中心的に扱うが、通時的側面を重視した内容がやや多めになる。 第 1 回受講者のバックグラウンドの確認・調整。議論の前提等のすりあわせ。研究倫理についての確認他。 第 2 回金水敏 2015 の紹介・検討、議論。 第 3 回金水敏 2015 に関連する諸研究についての議論。 第 4 回三宅知宏 2016 の紹介・検討、議論。 第 5 回三宅知宏 2016 に関連する諸研究についての議論。 第 6 回青木博史 2016 の紹介・検討、議論。 第 7 回青木博史 2016 に関する諸研究についての議論。 第 8 回小柳智一 2015 の紹介・検討、議論。 第 9 回小柳智一 2015 に関する諸研究についての議論。 第 10 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 11 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 12 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 13 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 14 回オリジナルな内容についての議論 (1) 第 15 回第 2~14 回の内容・議論についての補足、まとめ。
成績評価方法	議論への貢献を中心に評価する。希望があれば提出物の内容についても評価に加える。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語文法, 意味論, 語用論

授業科目名	日本語史料研究 (2A)
科目番号	02DT433
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	中世から近世への日本語史料として、狂言諸台本の位置づけを考える。その手がかりとして享保 15 年刊『狂言記拾遺』巻五を読む。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 01B4506 と同一。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語史料としての狂言台本の価値を検討し、中世から近世への日本語の変遷の中に位置付ける。具体的には、古典芸能としての能・狂言の基礎知識をもとに、享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読み、日本語史上の問題を掘り起こす。
授業計画	文献資料をひもときながら、日本語の変遷を文法・語彙を中心に検討する。資料として享保 15 年刊『狂言記拾遺』を版本のコピーで読む。授業では変体仮名に慣れるとともに、能・狂言という芸能について、映像や実際の舞台も見て知識を深める。その上で、他の狂言台本との読み比べをする。 第 1 回狂言という古典芸能について 能との共通点・相違点 第 2 回狂言の歴史 第 3 回現存する狂言台本について 第 4 回版本狂言記について 第 5 回版本狂言記の講読 (今年度は巻五から) 順次他の狂言台本との比較読みを進める。
成績評価方法	授業への参加状況 (実際に版本を音読する、他の狂言台本との比較読みをする) と、期末のレポートにより評価する。
教科書	版本のコピーおよび翻刻を受講者に配布する。 参考書については適宜、授業で紹介する。
参考書	1. 橋本朝生・土井洋一, 『狂言記』(新日本古典文学大系 岩波書店) 2. 北原保雄・吉見孝夫, 『狂言記拾遺の研究』(勉誠社)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	狂言記, 狂言のことば, 中世日本語, 近世日本語

授業科目名	日本語史料研究 (2B)
科目番号	02DT434
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	『狂言記拾遺』巻五の曲と残された諸流の狂言台本との間で筋立てや用語を中心に比較する。また、現在の舞台の映像も参考に、狂言用語の変容について考える。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 01B4507 と同一。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	各流派に伝わる狂言台本や実演映像と『狂言記拾遺』との内容や用語の比較を通して、狂言記の日本語史料としての価値と研究法について検討する。実演を見たり、演者の話を聞いたりする機会を設け、より狂言についての理解を深める。
授業計画	享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読み、他の狂言台本との比較をその場で行い、語彙を中心に影響関係や変遷を考える。 第 1 回古典芸能としての能・狂言 第 2 回狂言台本・版本狂言記について 第 3 回版本狂言記の講読 (2A の続き) 現役狂言師の講話も予定している
成績評価方法	授業への参加状況 (実際に版本を音読する、他台本との比べ読みをする) と学期末レポートによる。
教科書	版本のコピーおよび翻刻を受講者に配布する。 参考書については適宜、授業で紹介する。
参考書	1. 橋本朝生・土井洋一, 『狂言記』(新日本古典文学大系 岩波書店) 2. 北原保雄・吉見孝夫, 『狂言記拾遺の研究』(勉誠社)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	狂言, 古典芸能のことば, 狂言記, 中世日本語, 近世日本語

授業科目名	現代日本語研究 (2A)
科目番号	02DT443
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。この授業は、言語学的な追究とともに、それが現在の社会的な課題を解決するのにどのように寄与するのかについての検討も行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語の語彙・文法的な事象をさまざまな角度から分析し検討する。単に日本語の学術的な追究を目指すだけでなく、現代社会における言語と結びついた種々の課題を解決するために必要な研究について検討する。
授業計画	現代日本語の語彙・文法的な事象について、さまざまな角度から分析し検討する。現在進行中の研究プロジェクト「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」と連携する形で、言語研究の実践的応用のあり方について検討する。必要に応じ、受講者の自主的な発表を交える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回母語教育と日本語研究 (1) グローバル時代の母語教育には何が求められるのか、それを実現するためにはどのような日本語研究が必要となるのかを軸に、言語研究の実践的応用について考える。 第 3 回母語教育と日本語研究 (2) 現在進行中の「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」の基本的なアカデミックプランニングについて紹介するとともに、言語研究に関わる課題を紹介する。 第 4 回母語教育と日本語研究 (3) 「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」に関わる言語学的な課題とそのアプローチ、これまでの研究成果等について検討する。 第 5 回母語教育と日本語研究 (4) 引き続き、「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」に関わる言語学的な課題とそのアプローチ、これまでの研究成果等について検討する。 第 6 回母語教育と日本語研究 (5) 引き続き、「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」に関わる言語学的な課題とそのアプローチ、これまでの研究成果等について検討する。 第 7 回表現・理解活動と日本語研究 (1) これまでの授業内容を受けて、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。 第 8 回表現・理解活動と日本語研究 (2) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。 第 9 回表現・理解活動と日本語研究 (3) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。 第 10 回表現・理解活動と日本語研究 (4) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。 第 11 回表現・理解活動と日本語研究 (5) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。 第 12 回表現・理解活動と日本語研究 (6) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。

	第 13 回表現・理解活動と日本語研究 (7) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。 第 14 回表現・理解活動と日本語研究 (8) 引き続き、担当者の発表を軸に、表現・解釈に関わる課題の抽出と日本語研究の立場からのアプローチを模索する。 第 15 回まとめ
成績評価方法	出席状況、授業時の発表、およびディスカッションへの参加等を勘案し、総合的に評価する
教科書	必要に応じて、作文支援プロジェクトの報告書や発表資料等を配布する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	現代日本語、語彙論、文法論、課題解決型研究、母語教育

授業科目名	現代日本語研究 (2B)
科目番号	02DT444
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語について, さまざまな角度から検討を加える。表現や理解に関わる複合な現象について, 日本語学の観点から検討する。この授業では, 従来の言語学的知見が, このような課題に対しどのように寄与するか, また, 解決のためにはどのような研究が望まれているのか等, 複合的融合的課題を解決するための言語学的アプローチとは何かを考えていく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語の語彙・文法的な事象について, さまざまな方向から検討する。特に日本語の学術的な追究を目指すだけでなく, 現代社会の課題を解決するために, どのような言語研究が必要か検討していく。
授業計画	多言語使用・多文化理解を推進するための言語研究について、受講者の発表を交えて検討する。 第 1 回ガイダンス 第 2 回 MLC を支援する日本語研究 (1) 「マルチリンガルコミュニケーション時代の母語教育」研究プロジェクトの基本的な構想について紹介する。 第 3 回 MLC を支援する日本語研究 (2) 多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語研究が必要なのか検討する。 第 4 回 MLC を支援する日本語研究 (3) 引き続き、多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語研究が必要なのか検討する。 第 5 回 MLC を支援する日本語研究 (4) 多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語支援ツールの開発が望まれるのか、それに必要な言語研究とは何かについて検討する。 第 6 回 MLC を支援する日本語研究 (5) 引き続き、多言語使用・多言語理解の推進のためにどのような言語支援ツールの開発が望まれるのか、それに必要な言語研究とは何かについて検討する。 第 7 回 MLC と日本語研究 (1) これまでの授業内容を受けて、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。 第 8 回 MLC と日本語研究 (2) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。 第 9 回 MLC と日本語研究 (3) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。 第 10 回 MLC と日本語研究 (4) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。 第 11 回 MLC と日本語研究 (5) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。

	第 12 回 MLC と日本語研究 (6) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。 第 13 回 MLC と日本語研究 (7) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。 第 14 回 MLC と日本語研究 (8) 引き続き、担当者の発表を軸に、言語教育論、言語対照論、通訳・翻訳論、辞書論など、多様な観点から MLC に必要な日本語研究について模索する。 第 15 回まとめ
成績評価方法	出席状況、授業時の発表やディスカッション、対外的な研究発表等を勘案し、総合的に評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	マルチリンガルコミュニケーション, 母語教育, 母語研究, 対照研究, 言語支援ツール

授業科目名	日本語学演習 (2A)
科目番号	02DT453
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	橋本 修, 矢澤 真人, 大倉 浩, 那須 昭夫
授業概要	日本語学領域における最新動向を踏まえたオリジナル研究を目指して発表、討議を行う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	周辺領域の動向にも配慮しながら、受講者それぞれの研究内容に応じた情報収集能力・分析能力を身につける。
授業計画	受講者の発表と、それに関する質疑を中心とする。 第 1 回授業についての取り決め。研究倫理についての確認他。 第 2 回受講者の発表と質疑 (1) 第 3 回受講者の発表と質疑 (2) 第 4 回受講者の発表と質疑 (3) 第 5 回受講者の発表と質疑 (4) 第 6 回受講者の発表と質疑 (5) 第 7 回受講者の発表と質疑 (6) 第 8 回受講者の発表と質疑 (7) 第 9 回受講者の発表と質疑 (8) 第 10 回受講者の発表と質疑 (9) 第 11 回受講者の発表と質疑 (10) 第 12 回受講者の発表と質疑 (11) 第 13 回受講者の発表と質疑 (12) 第 14 回受講者の発表と質疑 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	担当発表の内容、質疑の水準等を総合的に勘案して評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語学, 学際研究

授業科目名	日本語学演習 (2B)
科目番号	02DT454
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	橋本 修, 那須 昭夫, 矢澤 真人, 大倉 浩
授業概要	対照研究・社会言語学的研究を含めた日本語学のオリジナル発表および検討。あわせて周辺領域への情報提示、広報技術の向上を図る。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	日本語学の最先端の内容を明確に示し、さらに適切なプレゼンテーションと議論で深める能力を身につける。
授業計画	受講者のオリジナル発表と、それに対する質疑を中心とする。オーディエンス・制限時間他、与えられた状況に適切なプレゼンテーションを行うことも求められる。 第 1 回授業についての取り決め。研究倫理についての確認他。 第 2 回受講者による発表と質疑 (1) 第 3 回受講者による発表と質疑 (2) 第 4 回受講者による発表と質疑 (3) 第 5 回受講者による発表と質疑 (4) 第 6 回受講者による発表と質疑 (5) 第 7 回受講者による発表と質疑 (6) 第 8 回受講者による発表と質疑 (7) 第 9 回受講者による発表と質疑 (8) 第 10 回受講者による発表と質疑 (9) 第 11 回受講者による発表と質疑 (10) 第 12 回受講者による発表と質疑 (11) 第 13 回受講者による発表と質疑 (12) 第 14 回受講者による発表と質疑 (13) 第 15 回補足とまとめ
成績評価方法	発表の内容、質疑の内容、および発表・質疑のプレゼンテーションの仕方を評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語学, プレゼンテーション能力

授業科目名	認知意味論 (2A)
科目番号	02DT503
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	和田 尚明, 廣瀬 幸生
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、形式主語の意味機能と認知の関係に焦点をあてる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、主に、形式主語の意味機能と認知の関係にかかわる問題を中心に考察する。
授業計画	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、形式主語の意味機能と認知の関係に焦点をあてる。なお、テキストは英語で書かれたものを扱う。 第 1 回ガイダンス:授業のテーマの概観、授業の進め方の確認、など 第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 1 第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 2 第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 3 第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 4 第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 5 第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 6 第 8 回中間のまとめと復習 第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 7 第 10 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 8 第 11 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 9 第 12 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 10 第 13 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 11 第 14 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 12 第 15 回全体のまとめと総括
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
教科書	1. Langacker, R., On the subject of impersonals
参考書	必要に応じて、授業時に適宜紹介する。 1. Langacker, R., Cognitive Grammar: A Basic Introduction (2008 OUP) 2. 山梨正明 (編), 認知言語学 (全 5 巻) Cognitive Linguistics (2016 セイジ・パブリケーションズ)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	認知意味論 (2B)
科目番号	02DT504
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	和田 尚明, 廣瀬 幸生
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、話し手にまつわる言語現象に焦点をあてる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、主に、話し手にまつわる言語現象に焦点を当てる。
授業計画	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、話し手にまつわる言語現象に焦点を当てる。なお、テキストは英語で書かれたものを扱う。 第 1 回ガイダンス:授業のテーマの概観、授業の進め方の確認、など 第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 1 第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 2 第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 3 第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 4 第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 5 第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 6 第 8 回中間のまとめと復習 第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 7 第 10 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 8 第 11 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 9 第 12 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 10 第 13 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 11 第 14 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 12 第 15 回全体のまとめと総括
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
教科書	初回授業時に指示する。
参考書	必要に応じて、授業時に適宜紹介する。 1. Langacker, R., Cognitive Grammar: A Basic Introduction (2008 OUP) 2. 山梨正明 (編), 認知言語学 (全 5 巻) Cognitive Linguistics (2016 セイジ・パブリケーションズ)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	生成統語論 (2A)
科目番号	02DT513
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	加賀 信広
授業概要	英語を中心にいくつかの文法現象を取り上げながら、生成統語論における研究の目的および手法を確認し、今後の発展の可能性を探る。主として投射とラベリングに関わる問題に焦点をあてる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけるとともに、具体例を用いて自ら分析を行い、かつ、自分の言葉で説明できるようになることが目標である。主に投射とラベリングに関わる問題に焦点をあて、英語を中心にいくつかの文法現象をとりあげる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1) 第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2) 第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3) 第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4) 第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5) 第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6) 第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7) 第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8) 第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9) 第 11 回論文の内容報告、解説、および、討論 (10) 第 12 回論文の内容報告、解説、および、討論 (11) 第 13 回論文の内容報告、解説、および、討論 (12) 第 14 回論文の内容報告、解説、および、討論 (13) 第 15 回論文の内容報告、解説、および、討論 (14)
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学年度末のタームペーパーの内容を総合して行う。
教科書	第 1 回目の授業時に指示する。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 投射, ラベリング

授業科目名	生成統語論 (2B)
科目番号	02DT514
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴
授業概要	英語を中心にいくつかの文法現象を取り上げながら、生成統語論における研究の目的および手法を確認し、今後の発展の可能性を探る。主として併合と内心構造に関わる問題に焦点をあてる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけるとともに、具体例を用いて自ら分析を行い、かつ、自分の言葉で説明できるようになることが目標である。主に併合と内心構造に関わる問題に焦点をあて、英語を中心にいくつかの文法現象をとりあげる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1) 第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2) 第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3) 第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4) 第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5) 第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6) 第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7) 第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8) 第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9) 第 11 回論文の内容報告、解説、および、討論 (10) 第 12 回論文の内容報告、解説、および、討論 (11) 第 13 回論文の内容報告、解説、および、討論 (12) 第 14 回論文の内容報告、解説、および、討論 (13) 第 15 回論文の内容報告、解説、および、討論 (14) 第 16 回論文の内容報告、解説、および、討論 (15)
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容と学年度末のタームペーパーの内容を総合して行う。
教科書	第 1 回目の授業時に指示する。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 併合, 内心構造

授業科目名	英語意味論演習 (2A)
科目番号	02DT523
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得することになることが到達目標である。特に、語用論・機能論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	下記以外は、授業時に随時指示。 1. Horn, L. R. and G. Ward (eds.), The Handbook of Pragmatics (Blackwell Publishing, 2004). 2. 山梨正明 (編), 認知言語学 (全 5 巻) Cognitive Linguistics (セイジ・パブリケーションズ 2016)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語意味論演習 (2B)
科目番号	02DT524
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、認知言語学に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	下記以外は、授業時に随時指示。 1. Geeraerts, D. and H. Cuyckens (eds.), The Oxford Handbook of Cognitive Linguistics (Oxford University Press, 2007). 2. 山梨正明 (編), 認知言語学 (全 5 巻) Cognitive Linguistics (セイジ・パブリケーションズ 2016)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	認知言語学, 意味論, 語用論, 機能論

授業科目名	英語統語論演習 (2A)
科目番号	02DT533
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、併合に関する論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、併合に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし
参考書	特になし
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (2B)
科目番号	02DT534
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、ラベリングに関する論文を中心に行なう。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、ラベリングに関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし
参考書	特になし
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語学特講 (2A)
科目番号	02DT543
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語学研究を進めるうえで必要な基礎知識、英語表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎力の充実および実践的な発信力の強化を図る。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回研究発表演習 1:自分の研究の発表と質疑応答の演習 第 3 回研究発表演習 2:自分の研究の発表と質疑応答の演習 第 4 回研究発表演習 3:自分の研究の発表と質疑応答の演習 第 5 回研究発表演習 4:自分の研究の発表と質疑応答の演習 第 6 回研究発表演習 5:自分の研究の発表と質疑応答の演習 第 7 回アブストラクト演習 1:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習 第 8 回アブストラクト演習 2:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習 第 9 回アブストラクト演習 3:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習 第 10 回アブストラクト演習 4:研究発表応募のための英文アブストラクトを書く演習 第 11 回英語での研究発表演習 1 第 12 回英語での研究発表演習 2 第 13 回英語での研究発表演習 3 第 14 回英語での研究発表演習 4 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業中の活動およびタームペーパーで評価する。
教科書	
参考書	1. Huddleston and Pullum (2002),The Cambridge Grammar of the English Language, CUP. あとは随時紹介する
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	英語学特講 (2B)
科目番号	02DT544
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	金谷 優
授業概要	英語で書かれた認知言語学の文献の輪読を通して、修士論文執筆前の院生が、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 01B8323 と同一。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	
授業計画	第 1 回ガイダンス (授業の概要、テキスト、進め方)、認知言語学の概要 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 1 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 2 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 3 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 4 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 5 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 6 第 8 回中間のまとめ 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 7 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 8 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 9 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 10 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 11 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づくテキストの精読と討論 12 第 15 回まとめ
成績評価方法	02DT544 英語学特講 (2B):授業への貢献度合い及びタームペーパーによる。 01B8323 英語学演習 III:授業への貢献度合い及び期末レポートによる。
教科書	初回授業で案内する。
参考書	
オフィスアワー	月曜 3 限 人文社会学系棟 B507
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス語学研究 (2A)
科目番号	02DT603
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	青木 三郎
授業概要	グローバル社会における現代フランス語研究の意義を明確にし、個別のテーマについて考察を進める。日本語とフランス語使用
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日仏対照言語学の方法論を通じて、フランス語のグローバル社会における有効性を考察する。
授業計画	(1) 言語事象の比較対照研究の概観 (2) フランス語の文構造の特徴 (3) 日本語の文構造の特徴 (4) 日仏語の文構造の比較 (5) フランス語の名詞句の特徴 (6) 日本語の名詞句の特徴 (7) 日仏語の名詞句の比較 (8) フランス語の動詞句の特徴 (9) 日本語の動詞句の特徴 (10) 日仏語の動詞句の比較 (11) フランス語の副詞の特徴 (12) 日本語の副詞の特徴 (13) 日仏語の副詞の比較 (14) 予備日 (15) 総括
成績評価方法	授業への参加度 (質疑応答、議論)、課題レポート (課題に対する文献調査、データ構築、仮説と推論) を通じて、基礎的知識の達成度、課題への応用力を測る。
教科書	
参考書	授業の進行に合わせて、文献を紹介する。
オフィスアワー	月:事前に面会時間を予約してください。 火:事前に面会時間を予約してください。 水:事前に面会時間を予約してください。 木:事前に面会時間を予約してください。 金:事前に面会時間を予約してください。 共同利用棟 A 302-2 / 共同利用棟 A 302-2 aoki.saburo.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	類型論と対照研究, 事象認識の比較, 文法カテゴリーの比較

授業科目名	フランス語学研究 (2B)
科目番号	02DT604
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	青木 三郎
授業概要	グローバル社会における現代フランス語研究の意義を明確にし、個別のテーマについて考察を進める。日本語とフランス語使用
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	グローバル社会における現代フランス語研究の意義を明確にするために、日本語とフランス語の個別のテーマについて考察を進める。日本語とフランス語使用
授業計画	(1) イントロダクション (2) フランス語における時間概念の捉え方 (3) 日本語における時間概念の捉え方 (4) 日仏語の時間概念の捉え方の比較 (5) フランス語における事態展開の捉え方 (6) 日本語における事態展開の捉え方 (7) フランス語における主観性の考え方 (9) 日本語における主観性の考え方 (10) 日仏語における主観性の比較 (11) フランス語における単数・複数概念 (12) 日本語における単数・複数概念 (13) 日仏語における文法数の比較 (14) 予備日 (15) 総括
成績評価方法	授業参加度および課題レポートにより、知識の達成度、課題に対する応用力を測る。同研究 (2A) に準ずる。
教科書	
参考書	授業の進行に合わせて文献を紹介しつつ、解説をする。
オフィスアワー	月:事前に面会時間を予約してください。 火:事前に面会時間を予約してください。 水:事前に面会時間を予約してください。 木:事前に面会時間を予約してください。 金:事前に面会時間を予約してください。 共同利用棟 A 302-2 / 共同利用棟 A 302-2 aoki.saburo.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	テンス・アスペクト・モダリティ, 文法数, 数量表現, 空間認知

授業科目名	フランス語学演習 (2A)
科目番号	02DT613
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 6
担当教員	青木 三郎
授業概要	フランス語の観察を通じて、文法カテゴリーの諸相について具体的な分析を行う。日本語とフランス語使用
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	文法カテゴリーの諸相について具体的な分析を行い、フランス語とはどのような言語かを理解する。あわせて、日本語との違いについて理解を深める。 日本語とフランス語使用
授業計画	(1) イントロダクション (2) 評価に関する諸表現の考察 (主観的評価と事態実現の見積) (3) プラス評価とマイナス評価 (4) 評価モダリティと文法的制約 (述語構造内) (5) 評価モダリティと文法的制約 (述語構造外) (6) 知覚表現の諸相 (7) 視覚表現の文法 (知覚対象の特徴) (8) 視覚表現の文法 (事態把握) (9) 聴覚表現の文法 (知覚対象の特徴) (10) 聴覚表現による事態把握の諸相 (11) 主観性述語と評価 (12) 文評価と見越しの評価 (13) 感情表現の文法 (14) 予備日 (15) 総括
成績評価方法	課題に対するプレゼンテーションを通じて、議論の組み立て方、説得性について測る。
教科書	
参考書	授業の進行に合わせて紹介し、解説を加える。
オフィスアワー	月:事前に面会時間を予約してください。 火:事前に面会時間を予約してください。 水:事前に面会時間を予約してください。 木:事前に面会時間を予約してください。 金:事前に面会時間を予約してください。 共同利用棟 A 302-2 / 共同利用棟 A 302-2 aoki.saburo.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	評価, 知覚と認識, 感情, 断定

授業科目名	フランス語学演習 (2B)
科目番号	02DT614
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 6
担当教員	青木 三郎
授業概要	フランス語の観察を通じて、文法カテゴリーの諸相について具体的な分析を行う。日本語とフランス語使用
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	フランス語の観察を通じて、文法カテゴリーの諸相について具体的な分析を行う。 日本語とフランス語使用
授業計画	(1) イントロダクション (2) レトリックの伝統 (3) レトリックと論理と言語の伝統的立場 (4) 文接続とテキスト言語学 (5) 結束性に関する批判的考察 (6) 接続詞と連結辞の諸相 (7) テキストの種類と類型 (8) 説明文、叙述文の特徴 (9) 論説文の特徴 (10) 物語文の特徴 (12) 文章 (テキスト) と言説 (ディスコース) (13) テーマ別の言説の特徴 (14) 予備日 (15) 総括
成績評価方法	プレゼンテーションを中心に、専門的知識と応用スキルの達成度を測る。
教科書	
参考書	授業の進行に合わせて具体的に文献を紹介・解説する。
オフィスアワー	月:事前に面会時間を予約してください。 火:事前に面会時間を予約してください。 水:事前に面会時間を予約してください。 木:事前に面会時間を予約してください。 金:事前に面会時間を予約してください。 共同利用棟 A 302-2 / 共同利用棟 A 302-2 aoki.saburo.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	レトリックと論理, 文の接続, テキストの種類, 結束性, 一貫性

授業科目名	フランス語意味論 (2A)
科目番号	02DT623
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語意味論の個別の問題について考察する。この学期はとくに、フランス語の語彙意味論に重点をおく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス語意味論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、講読、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回: 導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回以降: 論文を輪読しながら、講義、討論をする。 フランス語意味論 (2A) とフランス語文法論 (2A) を関連づけて進めるので、可能なかぎり両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	提出課題に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	なし
参考書	渡邊淳也 (2015) : 「Essuie-tout の意味論」『外国語教育論集』37. など
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	本質的機能, 操作図式, アフォーダンス

授業科目名	フランス語意味論 (2B)
科目番号	02DT624
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語意味論の個別の問題について考察する。この学期はとくに、フランス語と日本語の語彙の対照研究に重点をおく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス語意味論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、研究発表、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回: 導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回から第 6 回: 授業のテーマに関する講義。 第 7 回以降: 受講者に発表の順番をまわす。 フランス語意味論 (2B) とフランス語文法論 (2B) を関連づけて進めるので、可能なかぎり両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	提出課題に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	なし
参考書	ダニエル・ルボー、渡邊淳也 (2017) 「フランス語の sujet と対応する日本語の対照研究」青木三郎編『フランス語学の最前線』第 5 巻
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	語彙, フランス語, 日本語

授業科目名	フランス語文法論 (2A)
科目番号	02DT633
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語 (および、他のロマンス諸語) における動詞の時制、叙法について研究する。この学期はとくに、迂言的諸時制と、その基底となる動詞の文法化に重点をおく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス語文法論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、講読、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回: 導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回以降: 論文を輪読しながら、講義、討論をする。 フランス語文法論 (2A) とフランス語意味論 (2A) を関連づけて進めるので、可能なかぎり両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	提出課題に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	なし
参考書	渡邊淳也 (2017) 「フランス語および西ロマンス諸語における「行く」型移動動詞の文法化について」早瀬尚子・天野みどり編『構文と意味の拡がり』くろしお出版、など
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	迂言的未來形, 迂言的過去形, 移動動詞

授業科目名	フランス語文法論 (2B)
科目番号	02DT634
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語 (および、他のロマンス諸語) における動詞の時制、叙法について研究する。この学期はとくに、フランス語の各叙法 (ならびに他言語で対応する叙法) に重点をおく。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス語文法論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、研究発表、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回: 導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回から第 6 回: 授業のテーマに関する講義。 第 7 回以降: 受講者に発表の順番をまわす。 フランス語意味論 (2B) とフランス語文法論 (2B) を関連づけて進めるので、可能なかぎり両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	提出課題に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	なし
参考書	Corminboeuf, G. (2009) : L'expression de l'hypothèse en français, Duculot.
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	叙法, フランス語, ロマンス諸語, 直説法, 接続法, 条件法

授業科目名	フランス語学特講 (2A)
科目番号	02DT643
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	木田 剛
授業概要	「談話分析の実践研究」フランス語の談話構造を考察するために、メディアに現れるフランス語を観察しながら分析を試み、言語学者としての実践力を養う。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	本講義では、言語学における「アイデンティティ」の問題を、歴史と現代に照らし合わせて考察することを主眼としている。フランス語やフランス語圏の現状や歴史、また他の言語を通して見出される、社会と言語の関係や言語アイデンティティの問題を理論的かつ実践的に考察する姿勢を涵養することが目標である。そのため、課題に関する参考文献作成、分析データの収集、コーパスの作成などが指導される。理論研究とデータ分析の間の往来を繰り返しながら、言語研究の方法論を身に付ける。このように、言語データの帰納的な分析だけでなく、理論から研究課題を見出すような演繹的アプローチを行い、マクロとミクロの両視点から言語を考察する方法論を身に付けることを目指す。本年度は「紛争とことば:メディアおよび政治談話分析の実践研究」のテーマのもと、Travaux Interdisciplinaires sur la Parole et Langage (TIPA)、32 および 33 号に寄稿された論文を講読し、受講者全体で分析に取り組むべき研究課題を精査する。これらの作業を通して「気付き」を見出し、他者と議論や共同作業を重ねながら、学術的作品を作り出していくプロセスを実体験する。研究テーマの設定とデータ収集ならびにコーパス作成を主要な作業とし、同時に参考文献の渉獵を行う。コーパスの仮分析の結果の発表を行ったあと、報告書を作成する。
授業計画	第 1 回:講義の紹介、自己紹介、講義計画 第 2 回:資料研究 第 3 回:資料研究 第 4 回:資料研究 第 5 回:資料研究 第 6 回:研究計画と文献渉獵 第 7 回:研究計画と文献渉獵 第 8 回:研究計画と文献渉獵 第 9 回:データ整理とコーパス作成 第 10 回:データ整理とコーパス作成 第 11 回:データ整理とコーパス作成 第 12 回:コーパス分析と発表 第 13 回:コーパス分析と発表 第 14 回:コーパス分析と発表 第 15 回:総まとめ

成績評価方法	出席:30%、発表 20%、発言:50%。出席日数が全体の 3 分の 2 を下回る受講者には単位を認めない。正当な理由がある場合のみ、レポート提出などの代替措置を協議する。授業中の発言での積極性を評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	メールにて随時 (火曜日 4 限、水曜日 2 限ならびに木曜日終日を除く) 302-02 共同利用棟 A(Joint Use Facility Building A) / 302-02 共同利用棟 A(Joint Use Facility Building A) kida.tsuyoshi.ga%u.tsukuba.ac.jp(à remplacer % par at) http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000003017
TF・TA	
キーワード	言語, 社会, アイデンティティ, 主観性, 間主観性, 談話分析, テキスト言語学, フランス語, メディア, 政治言説

授業科目名	フランス語学特講 (2B)
科目番号	02DT644
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	木田 剛
授業概要	「談話分析の理論研究」フランス語を中心に談話分析やテキスト言語学の基本文献に触れながら基本概念を学ぶと同時に、研究方法を考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	本講義では、言語学における「アイデンティティ」の問題を、歴史と現代に照らし合わせて考察することを主眼としている。フランス語やフランス語圏の現状や歴史、また他の言語を通して見出される、社会と言語の関係や言語アイデンティティの問題を理論的かつ実践的に考察する姿勢を涵養することが目標である。そのため、課題に関する参考文献作成、分析データの収集、コーパスの作成などが指導される。理論研究とデータ分析の間の往來を繰り返しながら、言語研究の方法論を身に付ける。このように、言語データの帰納的な分析だけでなく、理論から研究課題を見出すような演繹的アプローチを行い、マクロとミクロの両視点から言語を考察する方法論を身に付けることを目指す。本年度のテーマは「紛争とことば:メディアおよび政治談話分析の実践研究」。前期に行った分析を国際ジャーナルに寄稿できる論文のレベルに仕上げることを目指す。分析結果に照らし合わせながら、関連性のある文献を読み込み、発表により理解を深める。議論とともに問題や課題を絞り込みながら、組み立てた論旨を論文の形にする。
授業計画	第 1 回:講義の紹介、自己紹介、講義計画 第 2 回:研究計画 第 3 回:研究計画 第 4 回:資料研究と文献渉猟 第 5 回:資料研究と文献渉猟 第 6 回:資料研究と文献渉猟 第 7 回:資料研究と文献渉猟 第 8 回:資料研究と文献渉猟 第 9 回:資料研究と文献渉猟 第 10 回:課題の整理 第 11 回:課題の整理 第 12 回:論文草稿作成 第 13 回:論文草稿作成 第 14 回:論文草稿作成 第 15 回:総まとめ

成績評価方法	出席:30%、発表 20%、発言:50%。出席日数が全体の 3 分の 2 を下回る受講者には単位を認めない。正当な理由がある場合のみ、レポート提出などの代替措置を協議する。授業中の発言での積極性を評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	メールにて随時 (火曜日 4 限、水曜日 2 限ならびに木曜日終日を除く) 302-02 共同利用棟 A(Joint Use Facility Building A) / 302-02 共同利用棟 A(Joint Use Facility Building A) kida.tsuyoshi.ga%u.tsukuba.ac.jp(à remplacer % par at) http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000003017
TF・TA	
キーワード	言語, 社会, アイデンティティ, 主観性, 間主観性, 談話分析, テキスト言語学, フランス語, メディア言語, 政治言説

授業科目名	ドイツ語学研究 (2A)
科目番号	02DT703
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を読みながら、現代ドイツ語における統語論的現象について考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	関連文献を読みながら、現代ドイツ語における形態論と統語論について議論する。
授業計画	第 1 回オリエンテーション 第 2 回関連文献の精読と議論 (1) 第 3 回関連文献の精読と議論 (2) 第 4 回関連文献の精読と議論 (3) 第 5 回関連文献の精読と議論 (4) 第 6 回関連文献の精読と議論 (5) 第 7 回ここまでの統括と全体討論 第 8 回関連文献の精読と議論 (6) 第 9 回関連文献の精読と議論 (7) 第 10 回関連文献の精読と議論 (8) 第 11 回関連文献の精読と議論 (9) 第 12 回関連文献の精読と議論 (10) 第 13 回関連文献の精読と議論 (11) 第 14 回関連文献の精読と議論 (12) 第 15 回まとめと全体討論
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備, ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	
オフィスアワー	予約により随時
TF・TA	
キーワード	分散形態論

授業科目名	ドイツ語学研究 (2B)
科目番号	02DT704
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を読みながら、現代ドイツ語と現代オランダ語における統語論的現象について考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	他のゲルマン語と比較しながら、現代ドイツ語における形態論と統語論について議論する。
授業計画	第 1 回関連文献の精読と議論 (1) 第 2 回関連文献の精読と議論 (2) 第 3 回関連文献の精読と議論 (3) 第 4 回関連文献の精読と議論 (4) 第 5 回関連文献の精読と議論 (5) 第 6 回関連文献の精読と議論 (6) 第 7 回ここまでの総括と全体討論 第 8 回関連文献の精読と議論 (7) 第 9 回関連文献の精読と議論 (8) 第 10 回関連文献の精読と議論 (9) 第 11 回関連文献の精読と議論 (10) 第 12 回関連文献の精読と議論 (11) 第 13 回関連文献の精読と議論 (12) 第 14 回関連文献の精読と議論 (13) 第 15 回まとめと全体討論
成績評価方法	授業で精読する文献に対する準備, ならびに学期毎に行ってもらうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	
オフィスアワー	予約により随時
TF・TA	
キーワード	分散形態論

授業科目名	ドイツ語意味論 (2A)
科目番号	02DT723
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	ドイツ語と日本語の語彙をさまざまな観点から比較・対照する。あわせてドイツ語文法についても知識を深める。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語で書かれた文献を精読しながら、ドイツ語語彙意味論についての基本的な知識を習得する。
授業計画	第 1 回オリエンテーション (おもに精読する文献の選定) 第 2 回ドイツ語文献の精読 第 3 回ドイツ語文献の精読 第 4 回ドイツ語文献の精読 第 5 回ドイツ語文献の精読 第 6 回ドイツ語文献の精読 第 7 回これまでの総括 第 8 回ドイツ語文献の精読 第 9 回ドイツ語文献の精読 第 10 回ドイツ語文献の精読 第 11 回ドイツ語文献の精読 第 12 回ドイツ語文献の精読 第 13 回ドイツ語文献の精読 第 14 回問題点の整理, ならびに全体での議論 第 15 回問題点の整理, ならびに全体での議論
成績評価方法	積極的な授業への参加, 発表, レポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	語彙意味論, ドイツ語文法

授業科目名	ドイツ語意味論 (2B)
科目番号	02DT724
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	ドイツ語と日本語の語彙と句をさまざまな観点から比較・対照する。あわせてドイツ語文法についても知識を深める。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語文献を精読しながら、ドイツ語意味論ならびに言語文化論についての基本的な知識を習得する。
授業計画	第 1 回オリエンテーション (おもに精読する文献の選定) 第 2 回文献の精読 第 3 回文献の精読 第 4 回文献の精読 第 5 回文献の精読 第 6 回文献の精読 第 7 回これまでの総括 第 8 回文献の精読 第 9 回文献の精読 第 10 回文献の精読 第 11 回文献の精読 第 12 回文献の精読 第 13 回文献の精読 第 14 回問題点の整理, ならびに全体討議 第 15 回問題点の整理, ならびに全体討議
成績評価方法	積極的な授業への参加, 発表, レポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	意味論, 言語文化論, ドイツ語文法

授業科目名	ドイツ語文法論 (2A)
科目番号	02DT733
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 3
担当教員	大矢 俊明
授業概要	英語やオランダ語と比較しながら、現代ドイツ語の文法的特徴を考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	おもに英語やオランダ語と比較しながら、現代ドイツ語における統語論について考察する。
授業計画	第 1 回オリエンテーション 第 2 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (1)。 第 3 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (2)。 第 4 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (3)。 第 5 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (4)。 第 6 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (5)。 第 7 回ここまでの総括と全体討論 第 8 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (5)。 第 9 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (6)。 第 10 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (7)。 第 11 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (8)。 第 12 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (9)。 第 13 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (10)。 第 14 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する (11)。 第 15 回まとめと全体討論
成績評価方法	授業で精読する文献に対する準備, ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	
オフィスアワー	予約により随時
TF・TA	
キーワード	生成文法

授業科目名	ドイツ語文法論 (2B)
科目番号	02DT734
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 3
担当教員	大矢 俊明
授業概要	他のゲルマン諸語と比較しながら、現代ドイツ語の文法的特徴を考察する。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	英語・オランダ語などのゲルマン諸語と比較しながら、現代ドイツ語の文法的を考察する。
授業計画	第 1 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (1)。 第 2 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (2)。 第 3 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (3)。 第 4 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (4)。 第 5 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (5)。 第 6 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (6)。 第 7 回ここまでの総括と全体討論 第 8 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (7)。 第 9 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (8)。 第 10 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (9)。 第 11 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (10)。 第 12 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (11)。 第 13 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (12)。 第 14 回現代ドイツ語における統語論的現象について議論する (13)。 第 15 回まとめと全体討論
成績評価方法	授業で精読する文献に対する準備, ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	プリントを配布する
参考書	
オフィスアワー	予約により随時
TF・TA	
キーワード	生成文法

授業科目名	ドイツ語史研究 (2A)
科目番号	02DT743
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	専門文献を精読しながら、文献精読能力の向上を図る。ドイツ語史を踏まえた高度な文法知識の習得にも力を入れる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ゲルマン語史ないしドイツ語史に関する文献を精読し、基本的な知識を習得する。ドイツ語文献精読能力も習得する。
授業計画	第 1 回オリエンテーション (精読する文献の選定) 第 2 回文献の精読 第 3 回文献の精読 第 4 回文献の精読 第 5 回文献の精読 第 6 回文献の精読 第 7 回これまでの総括 第 8 回文献の精読 第 9 回文献の精読 第 10 回文献の精読 第 11 回文献の精読 第 12 回文献の精読 第 13 回文献の精読 第 14 回全体討論 第 15 回全体討論
成績評価方法	積極的な授業への参加度やレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	ドイツ語史, 歴史言語学, ゲルマン語学

授業科目名	ドイツ語史研究 (2B)
科目番号	02DT744
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	専門文献を精読する。教壇に立つことも想定し、ドイツ語史を踏まえた高度な文法知識の習得にも力を入れる。
備考	2017 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ドイツ語史に関する文献を精読し、基本的な知識を習得する。教壇に立つことを想定し、ドイツ語の歴史的事実を踏まえた高度な文法知識を習得する。
授業計画	第 1 回オリエンテーション (精読する文献の選定) 第 2 回文献の精読 第 3 回文献の精読 第 4 回文献の精読 第 5 回文献の精読 第 6 回文献の精読 第 7 回文献の精読 第 8 回これまでの総括, ならびに問題点の整理 第 9 回文献の精読 第 10 回文献の精読 第 11 回文献の精読 第 12 回文献の精読 第 13 回文献の精読 第 14 回問題点の整理と全体討論 第 15 回問題点の整理と全体討論
成績評価方法	積極的な授業への参加度やレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	ドイツ語史, ドイツ語文法